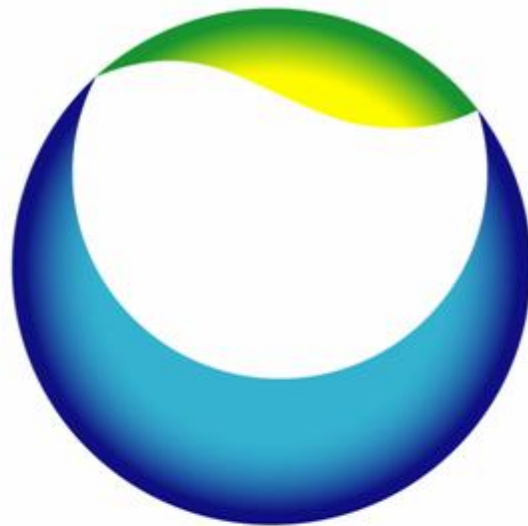


証券コード  
4568

決算短信及び補足資料  
(2008年3月期中間決算)



Daiichi-Sankyo

2007年11月

第一三共株式会社

[http:// www.daiichisankyo.co.jp](http://www.daiichisankyo.co.jp)



# 決算短信

P1 ~ 45

2007.11.6



第一三共株式会社  
コーポレートコミュニケーション部



## 2008年3月期 中間決算短信

2007年11月6日

上場会社名 第一三共株式会社

上場取引所 東証・大証・名証各第1部

コード番号 4568

URL <http://www.daiichisankyo.co.jp>

代表者 代表取締役社長 庄田 隆

問合せ先責任者 執行役員コーポレートコミュニケーション部長 高橋 利夫 TEL (03)6225-1126

半期報告書提出予定日 2007年12月13日

配当支払開始予定日 2007年12月3日

(百万円未満切捨て)

## 1. 2007年9月中間期の連結業績(2007年4月1日~2007年9月30日)

## (1) 連結経営成績

(%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間(当期)純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2007年9月中間期	443,708	△8.7	93,911	19.9	100,696	14.2	60,243	△9.9
2006年9月中間期	485,842	7.5	78,353	△2.5	88,208	6.7	66,886	35.3
2007年3月期	929,506	—	136,313	—	152,086	—	78,549	—

	1株当たり中間(当期)純利益		潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益	
	円	銭	円	銭
2007年9月中間期	83	19	—	—
2006年9月中間期	91	75	—	—
2007年3月期	107	75	—	—

(参考) 持分法投資損益 2007年9月中間期 36百万円 2006年9月中間期 18百万円 2007年3月期 △17百万円

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	円	百万円	円	%	円	銭	
2007年9月中間期	1,515,811		1,270,273		83.6	1,761	96	
2006年9月中間期	1,634,483		1,284,040		78.3	1,756	36	
2007年3月期	1,636,835		1,272,148		77.5	1,740	26	

(参考) 自己資本 2007年9月中間期 1,266,817百万円 2006年9月中間期 1,280,432百万円 2007年3月期 1,268,656百万円

## (3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー		投資活動によるキャッシュ・フロー		財務活動によるキャッシュ・フロー		現金及び現金同等物期末残高	
	百万円	円	百万円	円	百万円	円	百万円	円
2007年9月中間期	△6,834		5,610		△59,491		453,936	
2006年9月中間期	69,708		△32,726		△23,150		415,838	
2007年3月期	106,429		45,305		△40,768		513,211	

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金					
	中間期末		期末		年間	
	円	銭	円	銭	円	銭
2007年3月期	30	00	30	00	60	00
2008年3月期	35	00	—	—		
2008年3月期(予想)	—	—	35	00	70	00

## 3. 2008年3月期の連結業績予想(2007年4月1日~2008年3月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	876,000	△5.8	160,000	17.4	171,000	12.4	100,000	27.3	138	59

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） 無
- (2) 中間連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更（中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更に記載されるもの）

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有
- ② ①以外の変更 有

(注) 詳細は、21ページ「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」をご覧ください。

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）  
2007年9月中間期 735,011,343株 2006年9月中間期 735,011,343株 2007年3月期 735,011,343株

- ② 期末自己株式数  
2007年9月中間期 16,028,230株 2006年9月中間期 5,984,052株 2007年3月期 6,008,421株

(注) 1株当たり中間（当期）純利益（連結）の算定の基礎となる株式数については、38ページ「1株当たり情報」をご覧ください。

(参考) 個別業績の概要

1. 2007年9月中間期の個別業績（2007年4月1日～2007年9月30日）

(1) 個別経営成績 (%表示は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		中間（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2007年9月中間期	287,690	—	71,503	—	91,851	—	54,949	—
2006年9月中間期	2,757	237.8	127	△68.2	124	214.5	60	159.9
2007年3月期	6,141	—	361	—	269	—	△3,355	—

	1株当たり中間 （当期）純利益	
	円	銭
2007年9月中間期	75	88
2006年9月中間期	0	08
2007年3月期	△4	57

(2) 個別財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産	
	百万円	百万円	%	円	銭
2007年9月中間期	1,306,461	1,154,149	88.3	1,605	25
2006年9月中間期	1,214,867	1,188,421	97.8	1,617	01
2007年3月期	1,189,969	1,162,869	97.7	1,582	30

(参考) 自己資本 2007年9月中間期 1,154,149百万円 2006年9月中間期 1,188,421百万円 2007年3月期 1,162,869百万円

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

なお、上記予想に関する事項は添付資料の6ページを参照して下さい。

## 1. 経営成績

### (1) 経営成績に関する分析

#### a. 業績全般の概況

2007年度上半期、米国の医薬品市場は、ブランド品の旺盛な成長力、バイオ医薬市場の拡大、新製品効果などがあつたものの、大型医薬品の特許期間満了などにより成長が鈍化しています。他方、薬価改定がなかった日本市場の拡大や、中国、ロシアなど新興市場の勃興も追風となり、世界全体では堅実な市場成長がありました。

このような状況にあつて、当社グループの当中間期における売上高は4,437億円(前年同期比8.7%減)となりました。経営統合に伴う非医薬品事業のグループ外自立化、海外子会社の決算期変更といった特殊要因が減収の主たる要因ですが、既存主力製品のポテンシャル極大化と新製品の着実な育成策の展開により、グローバル製品を梃子とした世界4極での自社販売力強化は順調に進んでおり、特殊要因を除外した実質的な比較では増収となりました。また、経営統合によるコストシナジーの顕在化、選択と集中による経営資源のさらなる効率化に加え、一部の経費支出が下半期に繰越されたこともあり、営業利益は939億円(前年同期比19.9%増)、経常利益は1,006億円(前年同期比14.2%増)と夫々大幅な増益となりました。一方、当期純利益につきましては、前年同期において非医薬品事業の売却益など特別利益205億円が計上されたことから9.9%減の602億円となりました。

なお、海外子会社の決算期変更による影響額は、前年同期には米国子会社分として、売上高315億円、営業利益90億円、経常利益105億円、当期純利益58億円が、また、当中間期には欧州子会社分として、売上高141億円、営業利益18億円、経常利益21億円、当期純利益20億円が夫々加算されております。

#### b. 所在地別セグメントの概況

##### ① 日本

医療用医薬品事業に関しまして、2007年8月、厚生労働省が主体となって国内医薬品産業の国際競争力強化と、いわゆるドラッグ・ラグ(世界的には標準的に使われている薬剤について、日本ではまだ承認が得られていない状況)の解消を狙いとする新たな産業ビジョンが取り纏められました。本ビジョンは産官学の連携を強化し、イノベーションに対する適正な評価と、その促進を通じた医薬品産業の発展を目指すものです。

当社グループといたしましても、国際展開力・創薬力を飛躍的に高めて医療の水準向上に資すると同時に、知的財産立国を標榜する日本の経済成長を担い得る医薬品産業の一翼となるべく、秩序ある市場競争の中で、生命関連企業としての自負と健全なる緊張感を持って「グローバル創薬型企業(Global Pharma Innovator)」の実現に向けた諸施策を強力に推進しているところです。

日本の売上高は2,953億円(前年同期比13.6%減)となりました。

高血圧症治療剤のオルメテック、アーチスト、カルブロック、消炎鎮痛解熱剤ロキソニン、合成抗菌剤クラビットなどが当該市場の伸長を上回って拡大したものの、競合の激化などにより高脂血症治療剤メバロチン、造影剤オムニパーク等が減少したことに加え、前年同期に抗血小板剤プラビックスの営業権返還に伴う一時金収入が計上されていることもあり、医療用医薬品の売上高は前年同期比0.3%減となる2,145億円で収束しました。

また、海外ライセンスへの輸出およびロイヤリティ収入では、好調な現地での処方拡大を反映して、合成抗菌剤レボフロキサシンが継続拡大しているものの、主要国において特許期間が満了した高脂血症治療剤プラバスタチンの原末輸出の減少があり、売上高は397億円(前年同期比13.5%減)となりました。

一般用医薬品市場におきましては、生活者のセルフ・メディケーションへの注目に応えるべく改正薬事法に準拠した抜本的な制度の見直しが進められています。

そのような中で、当社グループの一般用医薬品の売上高は244億円(前年同期比0.6%減)となりました。期初に外用消炎鎮痛薬パテックス フェルビナクを新製品としてシリーズに加えた他、大型化が期待されるしみ(肝斑)改善薬トランシーノを9月に発売し、業績寄与がりましたが、2006年12月に水虫用薬ラミシールATを導入元に返還したことなどが影響し、前年同期との比較ではほぼ横這いの売上水準となりました。

なお、当社グループは、経営資源を医薬品事業へ集中させるため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めております。このため当該事業の売上高は前年同期から大幅に減少しており、166億円(前年同期比70.3%減)となりました。

##### ② 北米

世界最大の医薬品市場である米国市場の成長は鈍化傾向にあり、加えて、無保険者の増加や高齢化の進展などが先行きに不透明感をもたらす一因ともなっています。

このような状況にあつて、当社グループの北米での売上高は897億円(前年同期比17.4%減)となりました。この減収は前年同期における米国子会社の決算期変更によるもので、実質的には高血圧症治療剤ベニカーや高脂血症治療剤ウエルコール、貧血治療剤ヴェノファー等の伸長により増収となっています。

##### ③ その他

その他地域の売上高は586億円(前年同期比66.1%増)となりました。高血圧症治療剤オルメテックの伸長により欧州事業が拡大したほか、アジア諸国におきましても高血圧症治療剤オルメサルタン、合成抗菌剤レボフロキサシンの成長が業績を牽引しております。また、当中間期におきましては、欧州子会社の決算期変更、並びに中南米子会社2社の連結対象化を行っており、併せて170億円の増収要因となりました。

## c. 研究開発活動

当社グループの当期の研究開発費は医薬品事業を中心に782億円(前年同期比7.9%減)、売上高に対する研究開発費の比率は17.6%となりました。

当社グループは、グローバルに通用する革新的新薬の創製と早期販売を目指し、血栓症、糖尿病、癌、自己免疫疾患・関節リウマチの4疾患領域を研究開発における重点領域として定め、これらの領域にフォーカスした研究開発投資を行い「Global Pharma Innovator」の実現に向けた研究開発活動を推進しております。

当期の活動といたしましては、抗血小板剤CS-747(一般名:プラスグレル)の欧米における第3相試験を完了し、現在承認申請に向け、共同開発パートナーであるイーライ・リリー社とともに鋭意準備を進めております。次に、最優先研究開発課題のひとつである経口抗Xa剤DU-176bにつきましては、現在、世界各国において順調に後期第2相試験を推進しており、今年度中に第3相試験の準備に着手する計画です。なお同剤のバックアップ化合物であるDB-772dにつきましては、新たに第1相試験を開始しました。同様に最優先課題である高血圧症治療剤CS-8663(米国商品名:エイゾール、オルメサルタンメドキシミルとベシル酸アムロジピンとの配合剤)につきましては、9月に米国での販売承認を取得し、ほぼ同時期に欧州28カ国での承認申請を行いました。また、HGF遺伝子プラスミドに関しましては、末梢性血管疾患への適応取得を目的とする国内第3相臨床試験において、プラセボに対する顕著な有効性が認められたことから6月の段階で試験を中止し、予定を繰り上げて承認申請の準備に入りました。このほか麻酔用鎮痛剤フェンタニル注射液につきましては、8月に医師主導治験としては本邦初となる承認を取得し、小児へ適応が拡大されました。さらに、開発パイプラインのさらなる強化を企図したアライアンスの一環として、抗RANKL抗体デノスマブの骨粗鬆症治療等に関する国内での開発、販売について独占的権利をアムジェン社から獲得しました。

一方、化合物の安全性・有効性に関するプロファイル、並びに事業性の観点から、当社グループの研究開発ポートフォリオ戦略に則って開発課題の見直しを進めた結果、糖新生阻害剤CS-917、スギ花粉症治療剤CS-712、オルメサルタンの慢性糸球体腎炎への効能追加を狙ったCS-866RNについては開発の中止を決定いたしました。

## (2) 財政状態に関する分析

## a. キャッシュ・フローの状況

(単位 億円)

	2006年9月 中間期	2007年9月 中間期	増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	697	△68	△765
投資活動によるキャッシュ・フロー	△327	56	383
財務活動によるキャッシュ・フロー	△231	△594	△363
現金及び現金同等物の増減額	139	△608	△747
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,158	4,539	380

当中間期における現金及び現金同等物は、期首に比べ592億円減少の4,539億円となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前中間純利益はほぼ前年同期並みでありましたが、前期末に計上した要員適正化や機能子会社への転籍に伴う退職金未払額等の支払いが当中間期に行われるなど未払金及び未払費用が649億円減少したことにより、68億円の支出(前年同期は697億円の収入)となりました。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動に使用されたキャッシュ・フローは、非医薬品事業の自立化に伴う子会社株式譲渡収入が前年同期と比較して大幅に縮小した一方、有形・無形固定資産の取得や債券等運用資産の増加などにより、56億円の収入(前年同期は327億円の支出)となりました。

## (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動に使用されたキャッシュ・フローは、前年同期に比べ5円増配したことにより中間配当金の支払額が増加したことに加え、自己株式の取得を実施したことなどにより、前年同期比363億円増加の594億円の支出となりました。

なお、キャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

	2006年3月期	2007年3月期	2007年9月 中間期
自己資本比率 (%)	77.5	77.5	83.6
時価ベースの自己資本比率 (%)	122.6	160.8	163.6
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	0.11	0.06	0.10
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	593.9	670.1	281.0

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

(中間期については、キャッシュ・フローを年額に換算するため2倍しております。)

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

※各指標は、いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

※株式時価総額は、期末株価終値×期末発行済株式総数(自己株式控除後)により算出しております。

※有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

※キャッシュ・フローは、連結キャッシュ・フロー計算書の「営業活動によるキャッシュ・フロー」から「利息の支払額」及び「法人税等の支払額」を控除した数値を使用しております。また、利払いについては、連結キャッシュ・フロー計算書の「利息の支払額」を使用しております。

### (3) 利益配分に関する基本方針及び当期の配当

当社は、グループの事業活動から得られた成果の配分を最も重要な経営課題の一つとして位置付けており、業績や資本効率の観点から利益還元を重視するとともに、今後の成長戦略展開に備えた内部留保の充実などを総合的に勘案し、利益配分を決定してまいります。

その中で2007年4月以降2009年度までの3年間につきましては、原則として当期純利益相当額を配当と自己株式の取得に充当することを方針としており、2009年度時点で配当性向50%程度、純資産配当率(DOE)5%以上を達成するべく安定的な増配を図るとともに、自己株式の取得についても機動的に実施してまいります。また、内部留保につきましては、研究開発、企業提携、海外事業基盤の強化など、将来の成長を具現化させるための投資に充ててまいります。

この方針のもと、当中間期におきましては、6月から7月にかけて10百万株(332億円)の自己株式取得を行いました。また、配当金につきましては、通期で対前年から10円増配となる1株当たり70円の配当を予定しており、当中間期につきましては、前年同期から5円増配して1株当たり35円をお支払いすることとしております。

### (4) 事業等のリスク

当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性のある主なリスクには以下のようなものがあります。なお、文中における将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### a. 研究開発に関するリスク

新薬候補品の研究開発には、多額の費用と長い年月が必要であります。その間に期待された有用性が確認できず研究開発を中止する可能性があります。また、他者との研究開発に係る提携に関して契約条件の変更・解消等が起こった場合、研究開発の成否に影響を及ぼすことがあります。

#### b. 製造・仕入れに関するリスク

製品の一部は当社グループの工場において独自の技術により製造しており、また、商品及び原材料の一部には特定の取引先とその供給を依存している品目があります。このため、なんらかの理由により製造活動や仕入れが遅延または停止した場合、損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。医薬品は薬事法の規制の下で製造しておりますが、品質問題の発生により製品回収等を行うことになった場合、損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

#### c. 販売に関するリスク

予期していなかった副作用の発現、同領域の他社製品との競合や特許切れによる後発品の参入等は、売上を減少させる要因となり、損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。販売及び技術導出契約の満了、契約条件の変更・解消等が起こった場合、損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

#### d. 法規制、行政動向に関するリスク

国内医療用医薬品は、薬事行政の下、種々の規制を受けております。また、2年毎に実施されている薬価基準の改定をはじめとして、医療制度や健康保険に関する行政施策の動向は、損益及び財政状態に影響を及ぼすことがありま

す。また、海外においても同様に、医薬品として各種の規制の影響を受けております。

e. 知的財産に関するリスク

当社グループの事業活動が他者の特許等知的財産権に抵触する場合、事業の断念や係争の可能性があります。一方、他者が当社グループの特許等知的財産権を侵害すると考えられる場合は、その保護のため訴訟を提起する場合があります。それらの動向は損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

f. 環境問題に関するリスク

医薬品の研究、製造の過程で使われる化学物質のなかには、人の健康や生態系に影響を与える物質も含まれています。大気汚染・水質汚濁の防止については各事業所とも自主規制を実施しており、使用する化学物質については環境への影響がより少ない物質に切り替えるなど、環境保全に努めておりますが、万一、これらに関し周辺環境に深刻な影響を与えていると判断された場合、損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

g. 訴訟に関するリスク

公正取引に関する事案の他、事業活動に関連して、医薬品の副作用、製造物責任、労務問題などに関し、訴訟を提起される可能性があります。その動向によっては損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

h. 為替変動に関するリスク

為替相場の変動により、不利な影響を受ける可能性があります。当社グループはグローバルに事業を展開し、生産・販売・輸出入を行っておりますので、為替相場の変動は損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあります。

i. その他のリスク

上記のほか、当社グループの損益及び財政状態に影響を及ぼすことがあるリスクとしては、地震等大規模な災害の発生に伴う事業活動の停滞、ネットワークウイルス等によるコンピュータシステムの休止、株価や金利の変動、取引先の経営悪化や国情等に起因する売上債権や貸付金の貸倒れなどが考えられます。

(5) 通期の見通し

(単位 億円)

	今回発表予想		前回発表予想		増減額 (A)-(B)	増減率 (%)	2007年3月期 実績
	(A)	前期比(%)	(B)	前期比(%)			
売上高	8,760	△5.8	8,370	△10.0	390	4.7	9,295
営業利益	1,600	17.4	1,570	15.2	30	1.9	1,363
経常利益	1,710	12.4	1,650	8.5	60	3.6	1,520
当期純利益	1,000	27.3	920	17.1	80	8.7	785

当社グループは、2005年9月に共同持株会社である第一三共(株)を設立し、完全統合に向けた諸準備を進めてまいりました。2007年4月には、三共(株)と第一製薬(株)を第一三共(株)が吸収合併して全ての統合作業が完了し、本年度より新生・第一三共(株)として、「Global Pharma Innovator」の早期実現に向けた事業活動を加速させております。

このような状況の中2007年度通期の業績見通しは、上半期の成果を受けて売上高、利益とも増額修正いたしました。

売上高に関しましては、当中間期、高血圧症治療剤オルメテックを中心に増収基調を堅持しつつも、計画をやや下回った国内医薬品事業につきまして、通期で若干の減額修正をしました。一方、海外事業におきまして、高血圧症治療剤オルメサルタンが当初計画を上回る拡大傾向にあることや、減少を予想していた貧血治療剤ヴェノファーについて前年同期並みの売上高を見込める状況にあること、さらには為替相場が円安水準で推移していることなどを背景に、グループ全体では前回予想より390億円上方修正となる8,760億円を見込んでおります。

また、経費関連では引き続き販売促進費や他の一般管理費を中心にさらに効率化を進めますが、研究開発費につきましては、新たに導入した抗RANKL抗体デノスマブに関する開発費が発生するほか、経口抗Xa剤DU-176b、抗血小板剤CS-747(一般名: プラスグレル)の開発費の増大により、前回予想から100億円増の1,715億円を見込んでおります。さらに、米国において本年10月に発売した高血圧症治療剤エイゾールに関するフォレスト・ラボラトリーズ社との共同販促費用の増も見込まれます。この結果、営業利益、経常利益、当期純利益につきましては小幅な増額修正に留まり、夫々、前回予想より30億円、60億円、80億円増となる1,600億円、1,710億円、1,000億円を見込んでおります。

また、当社グループは経営資源の医薬品事業への集中を図るべく、非医薬品事業のグループ外化を推進しておりますが、今回の修正業績予想には、一部、非医薬品事業の業績が含まれております。これによる売上高への影響額は163億円、利益への影響は軽微であります。

一連の事業再編の影響、並びに欧米グループ会社の決算期変更の影響を差し引いた実質の対前年比較では、売上高6.5%増、営業利益32.3%増、経常利益26.1%増と、増収・増益を見込んでおります。

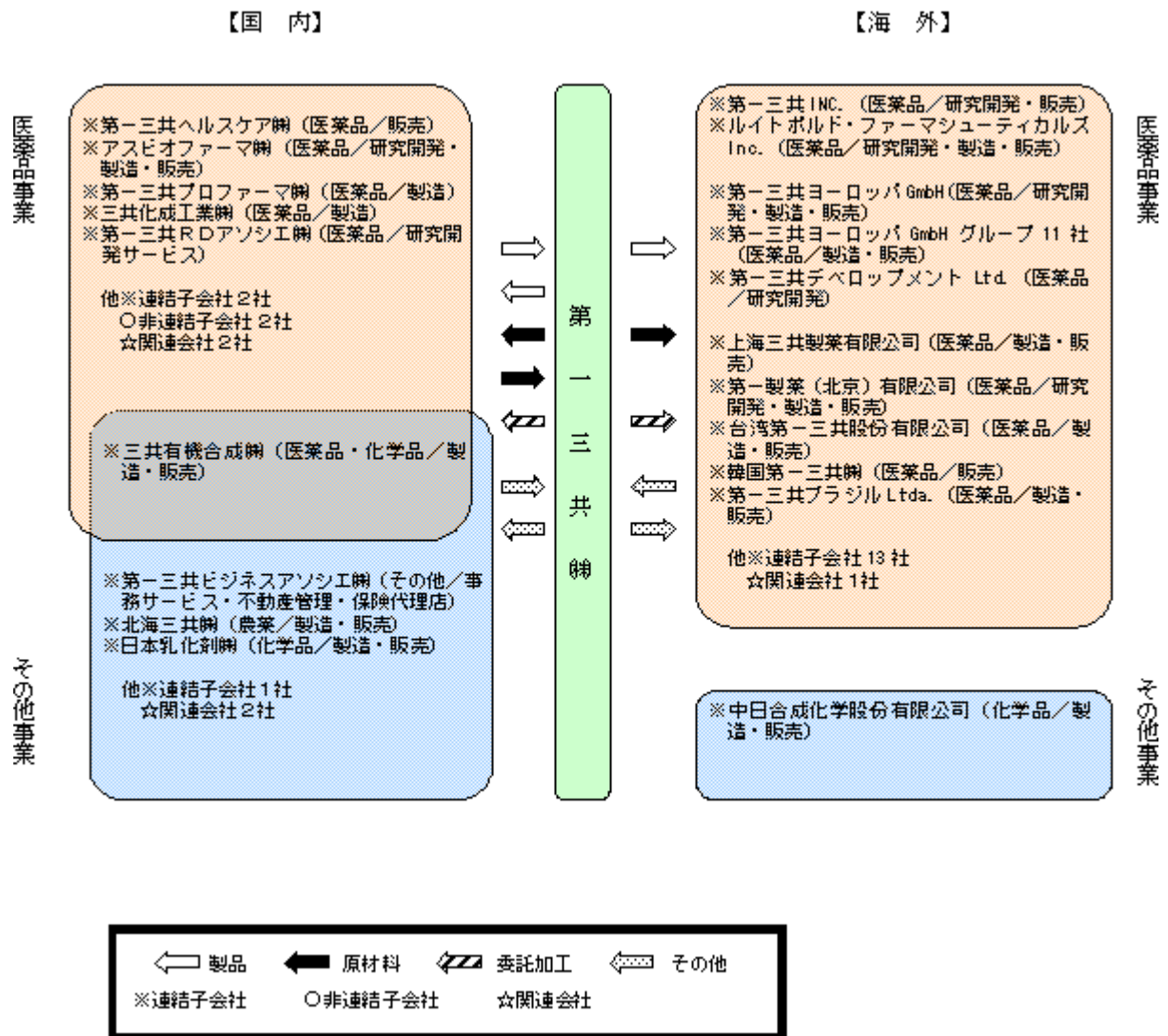
なお、下半期の業績予想に際し、為替レートに関する当社グループの前提は、1ドル=115円、1ユーロ155円としております。



## 2. 企業集団の状況

当社グループは、当社と子会社48社、関連会社5社の計54社で構成され、医薬品等の製造販売を主な事業内容としています。

当社グループの状況について、2007年9月30日時点の事業系統図を示すと次のとおりであります。



第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

関係会社の状況 (2007年9月30日時点)

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有割合	関係内容
(連結子会社)					
アスピオファーマ(株)	東京都港区	百万円 11,000	医薬品	% 100.0	役員の兼任等 当社が製品を購入 当社が設備資金を貸与
第一三共ヘルスケア(株)	東京都中央区	100	医薬品	100.0	当社が製品を供給 当社が事務室等を賃貸
第一三共プロファーマ(株)	東京都中央区	100	医薬品	100.0	役員の兼任等 当社が製品を購入 当社が設備資金を貸与 当社が事務室及び工場土地を賃貸
第一三共RDアソシエ(株)	東京都品川区	50	医薬品	100.0	役員の兼任等 当社が研究開発業務を委託 当社が事務室を賃貸
第一三共ビジネスアソシエ(株)	東京都中央区	50	その他	100.0	役員の兼任等 当社が事務業務を委託 当社が事務室及び賃貸用不動産を賃貸 当社が事務室を賃借
三共有機合成(株)	神奈川県川崎市 高津区	300	医薬品 その他	93.4	
三共化成工業(株)	東京都中央区	65	医薬品	100.0	当社が設備資金及び運転資金を貸与
北海三共(株)	北海道北広島市	331	その他	80.0	
日本乳化剤(株)	東京都中央区	300	その他	100.0	当社が工場土地を賃貸 借入金に対する債務保証
第一三共INC.	アメリカ ニュージャージー	百万US\$ 24.9	医薬品	100.0	役員の兼任等 当社が製品を供給 当社が販促及び研究開発業務を委託 共同販促契約に伴う支払債務等に対する債務保証
ルイトボルド・ファーマ シューティカルズInc.	アメリカ ニューヨーク	千US\$ 200	医薬品	100.0 (100.0)	役員の兼任等
第一三共ヨーロッパGmbH	ドイツ ミュンヘン	百万EUR 16	医薬品	100.0	役員の兼任等 当社が製品を供給 当社が製造を委託 当社が販促及び研究開発業務を委託 当社が設備資金を貸与
第一三共UK Ltd.	イギリス バッキンガムシャー	百万GBP 19.5	医薬品	100.0 (100.0)	
第一三共スペインS. A.	スペイン マドリッド	千EUR 120	医薬品	100.0 (100.0)	
第一三共イタリアS. p. A.	イタリア ローマ	千EUR 120	医薬品	100.0 (100.0)	

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

名称	住所	資本金又は出資金	主要な事業の内容	議決権の所有割合	関係内容
第一三共ポルトガルLda.	ポルトガル ポルト・サルヴォ	千EUR 349	医薬品	% 100.0 (100.0)	
第一三共オーストリアGmbH	オーストリア ウィーン	千EUR 18	医薬品	100.0 (100.0)	
第一三共スイスAG	スイス タールヴィル	百万CHF 3	医薬品	100.0 (100.0)	
第一三共オランダB. V.	オランダ ツバネンブルク	千EUR 18	医薬品	100.0 (100.0)	
第一三共ベルギーN. V. S. A.	ベルギー ルーヴァン・ラ・ヌーヴ	千EUR 62	医薬品	100.0 (100.0)	
第一三共アルトキルヒS. a. r. l.	フランス アルトキルヒ	千EUR 457	医薬品	100.0 (100.0)	
第一三共ドイツGmbH	ドイツ ミュンヘン	千EUR 51	医薬品	100.0 (100.0)	
第一三共フランスS. A. S.	フランス リュ・エル・マルメゾン	千EUR 2,182	医薬品	100.0 (100.0)	
第一三共デベロップメント Ltd.	イギリス バッキンガムシャー	千GBP 400	医薬品	100.0	役員の兼任等
第一製薬(北京)有限公司	中国 北京	千US\$ 63,800	医薬品	100.0	役員の兼任等 当社が製品を供給 当社が研究開発業務を委託 当社が設備資金を貸与
上海三共製薬有限公司	中国 上海	千US\$ 53,000	医薬品	100.0	役員の兼任等 当社が製品を供給 当社が製造を委託
台湾第一三共股份有限公司	台湾 台北	百万NT\$ 345	医薬品	100.0	役員の兼任等 当社が製品を供給 当社が製品を購入
韓国第一三共(株)	大韓民国 ソウル	百万W 3,000	医薬品	100.0	役員の兼任等
第一三共ブラジルLtda.	ブラジル サンパウロ	百万Real 21	医薬品	100.0	役員の兼任等 当社が製品を供給
中日合成化学股份有限公司	台湾 台北	百万NT\$ 144	その他	52.0 (3.4)	役員の兼任等
その他16社 (持分法適用関連会社)					
サノフィパスツール第一三共ワクチン(株)	東京都江戸川区	百万円 310	医薬品	% 50.0	役員の兼任等 当社が運転資金を貸与 当社が事務室等を賃貸
(株)日立ファルマエヴォリューションズ	東京都千代田区	250	その他	49.0	役員の兼任等 当社が事務室を賃貸
その他1社					

### 3. 経営方針

#### (1) 経営の基本方針

当社グループは、革新的医薬品とサービスを継続的に生み出し、世界中の人々の医療ニーズに応えることを企業理念とし、目標企業像である「グローバル創薬型企業 (Global Pharma Innovator)」の実現を目指しております。これは、日本の医薬品業界のリーディングカンパニーとして革新的医薬品を継続して創出し、グローバル化された事業基盤のもとで、世界の主要国で事業展開することであり、特定領域でグローバルな競争力をもつ企業になることを目指すものです。

この目標企業像の実現を通して、高い成長性から生み出される付加価値によって株主に応える経済的価値、社会の一員としての役割を果たし社会との調和を目指す社会的価値、従業員の能力向上を積極的に支援し能力を活かす人間的価値の3つの価値を企業価値と捉え、その向上に努めてまいります。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、既存主力品の着実な伸長と新製品の寄与、「グローバル創薬型企業 (Global Pharma Innovator)」として必要な研究開発費を確保しながら、経営統合に伴うシナジーの実現により、利益構造を大きく変化させ、2009年度において売上高9,600億円、営業利益2,400億円の達成を目標としております。

#### (3) 中長期的の経営戦略と対処すべき課題

当社グループは、今般の経営統合を機に、「グローバル創薬型企業 (Global Pharma Innovator)」としての第一歩を踏み出すべく、以下の経営課題に鋭意取り組んでおります。

##### a. 完全統合による成果の早期獲得

当社グループは、事業統合スケジュールに従い、第一段階として、2005年9月に株式移転により共同持株会社である第一三共(株)を設立しました。以降グループ会社の再編を含めて統合作業を順次進め、2007年4月に三共(株)と第一製薬(株)を持株会社である第一三共(株)が吸収合併して、全ての統合作業を完了しました。

今後は第一三共グループとして業界最高水準の業務運営効率を目指し、統合シナジーの着実な実現を図るとともに、経営管理機能、事業推進機能の強化や人材の育成も合わせて実現してまいります。

##### b. 医薬品事業への集中

当社グループは、事業の卓越性と継続的な成長を担保するため、医療用医薬品事業とヘルスケア事業からなる医薬品事業へ特化することとし、非医薬品事業専門のグループ会社のグループ外での完全自立化を図ってまいります。既に2006年度中に、主要各社のグループ外自立化を実施しておりますが、今後につきましても、子会社再編も視野に入れつつ、「グローバル創薬型企業 (Global Pharma Innovator)」の実現を追求してまいります。

##### c. 革新的新薬の創出力向上

当社グループは、未充足の医療ニーズに対し、革新的な新薬を開発することを目標とし、その実現のため、1)適正規模のグローバル研究開発組織、2)重点領域における革新的研究開発を遂行する投資規模の確保、3)主要な開発候補品を独自開発するための人材の確保、さらには4)効果的かつ効率的な開発プロジェクト管理とタイムリーな意思決定等を経営課題として体制作りに取り組んでおります。その中で、研究開発マネジメントの一元化によるグローバル開発体制の構築を最優先課題として、グローバルR&D意思決定会議体 (GEMRAD) を設置し、研究開発における標的疾患領域を、血栓症、糖尿病、癌、自己免疫疾患・関節リウマチの4疾患領域と定めました。また、開発品の中から優先度評価を行い、最優先開発課題を選定し、開発プロジェクトチームを設置して研究開発を推進しております。

##### d. 国内外の収益基盤強化

国内医療用医薬品事業では、経営統合により当社のMR (医薬情報担当者) 数は2,300名規模となり、質・量とも卓越した営業力を確保しております。さらに全国規模の医薬品卸会社との取引関係の一層の強化により、規模拡大のメリットを生かした流通戦略の展開してまいります。2007年4月以降、この総合的な営業力を背景にして、主力製品への取組みを集中し、売上拡大を図り、国内市場での基盤を一層強化してまいります。

海外医療用医薬品事業では、経営統合による規模のメリットを活用し、米国を中心に優先プロジェクトの自社開発、自社販売による製品価値の飛躍的な増大を目指します。このため米国を中心とした海外開発・営業拠点の拡充は必須の経営課題となりますが、企業提携やM&A等外部資源の獲得も選択肢に入れ、拡充を図ってまいります。

ヘルスケア事業においては、新生・第一三共ヘルスケア(株)が2007年4月から営業を開始しました。これにより、研究開発力、マーケティング力、営業力の有機的集中が図られ、既存ブランドや新製品の売上拡大が期待できるとともに、ブランド資産の拡充とローコスト体制の構築により収益基盤の強化に注力してまいります。

##### e. 株式の大量取得を目的とする買付けに対する基本的な考え方

当社は、株式の大量取得を目的とする買付けが行われる場合、それに応じるか否かは、株主の皆様の判断に委ねられるものと考えており、経営権の異動を通じた企業活動の活性化等の意義を否定するものではありません。したがって、当社は買収防衛策を予め定めてはおりません。

しかし、一般に高値売上げ等の不当な目的による企業買収の提案があり、それが当社の企業価値・株主共同の利益の向上に資さない場合には、当社としてその提案に対抗することは当然の責務と認識しております。そのため、当社は株式取引や株主の異動状況等を常に注視しており、実際に当社株式の大量取得を目的とした買付者が出現した場合には、社外の専門家を交えて買収提案の評価を行い、当社の企業価値・株主共同の利益への影響を慎重に判断し、これに資さない場合には、個別の案件に応じた適切な対抗措置を講じてまいります。

(4) その他、会社の経営上重要な事項

a. 米国において、ワーナー・ランバート社が、当社子会社であった三共(株)が供給した原薬(一般名:トログリタゾン)を使用して、2000年3月まで製造販売しておりました糖尿病治療剤レズリンを服用した患者から、ワーナー・ランバート社らに対して、同剤の服用により被害を受けたとして、損害賠償などを求める訴訟が米国内において多数提起されております。そのうちの一部の訴訟については、三共(株)の米国子会社であった三共ファルマInc.(現第一三共INC.)も被告となっており、ワーナー・ランバート社とともに、これらの訴訟に対応しております。これらの訴訟において原告が要求している救済には、損害賠償、懲罰的賠償が含まれております。なお、三共(株)とワーナー・ランバート社との同剤に関するライセンス契約には、同剤に関連して訴訟が発生した場合の、三共(株)及び三共(株)子会社の負担費用など(損害賠償金を含む)に関するワーナー・ランバート社による補填規定があり、これは第一三共(株)に承継されています。

b. 当社子会社であった第一製薬(株)は、米国において、マイラン社等が合成抗菌剤レボフロキサシンの後発品申請を行ったことに対し、同社の特許権の侵害であると判断し、同社及びライセンシーが共同で裁判所に提訴しておりました。2005年12月、同社側は控訴裁判所においてマイラン社グループに勝訴し、マイラン社グループの上告断念により2006年6月に勝訴判決が確定しました。また、同年5月にニュージャージー州連邦地方裁判所で、残るテバ社他3社にも勝訴し、テバ社等の控訴断念により翌6月に勝訴判決が確定しました。さらに、ルパン社が同製品の後発申請を行ったことから、2006年10月、ルパン社に対する特許侵害訴訟をニュージャージー州連邦地方裁判所に提起しております。

c. 当社子会社であった三共(株)、及び三共(株)の米国子会社であった第一三共INC.は、米国において同社の高血圧症治療剤ベニカー(一般名:オルメサルタンメドキシミル)に後発品申請を行ったマイラン社に対し、三共(株)(現第一三共(株))が米国において保有するオルメサルタンメドキシミルの物質特許に基づいて、2006年7月にニュージャージー州連邦地方裁判所に特許侵害訴訟を提起しております。

d. 当社、及び当社の米国子会社である第一三共INC.は、米国において同社の高血圧症治療剤ベニカーHCT(オルメサルタンメドキシミルとヒドロクロチアジドの配合剤)に後発品申請を行ったマイラン社に対し、三共(株)(現第一三共(株))が米国において保有するオルメサルタンメドキシミルの物質特許に基づいて、2007年6月にニュージャージー州連邦地方裁判所に特許侵害訴訟を提起しております。

## 4. 中間連結財務諸表

## (1) 中間連結貸借対照表

区分	注記 番号	前中間連結会計期間末 (2006年9月30日)		当中間連結会計期間末 (2007年9月30日)		前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (2007年3月31日)		
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
(資産の部)								
I 流動資産								
1	現金及び預金	208,480		63,850		232,614		
2	受取手形及び売掛金	231,543		190,753		197,158		
3	有価証券	318,548		490,527		373,896		
4	抵当証券	15,000		—		15,000		
5	たな卸資産	117,692		105,107		107,758		
6	繰延税金資産	57,606		59,953		63,364		
7	その他	26,729		35,485		26,773		
	貸倒引当金	△682		△818		△724		
	流動資産合計	974,918	59.6	944,859	62.3	1,015,840	62.1	
II 固定資産								
1 有形固定資産								
(1)	建物及び構築物	156,568		140,840		142,534		
(2)	機械装置及び運搬具	48,504		35,798		40,010		
(3)	土地	44,459		36,595		38,011		
(4)	建設仮勘定	6,722		11,200		12,013		
(5)	その他	19,164	275,419	15,961	240,397	16,288	248,857	15.2
2 無形固定資産								
(1)	のれん	20,209		16,766		18,569		
(2)	その他	48,149	68,358	37,039	53,806	41,584	60,153	3.7
3 投資その他の資産								
(1)	投資有価証券	261,787		245,873		262,240		
(2)	長期貸付金	5,748		1,455		1,615		
(3)	前払年金費用	16,917		3,694		18,021		
(4)	繰延税金資産	9,428		5,987		8,890		
(5)	その他	22,730		20,085		21,636		
	貸倒引当金	△825	315,787	△349	276,747	△421	311,983	19.0
	固定資産合計	659,565	40.4	570,951	37.7	620,994	37.9	
	資産合計	1,634,483	100.0	1,515,811	100.0	1,636,835	100.0	

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

区分	注記 番号	前中間連結会計期間末 (2006年9月30日)		当中間連結会計期間末 (2007年9月30日)		前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (2007年3月31日)		
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
(負債の部)								
I 流動負債								
1	支払手形及び買掛金	56,408		49,508		56,435		
2	短期借入金	5,616		4,554		8,560		
3	未払法人税等	32,789		19,093		27,573		
4	繰延税金負債	59		—		—		
5	返品調整引当金	1,580		1,078		1,315		
6	売上割戻引当金	2,322		3,329		2,471		
7	偶発損失引当金	3,345		2,232		3,498		
8	その他	141,078		108,779		181,654		
	流動負債合計	243,201	14.9	188,576	12.4	281,510	17.2	
II 固定負債								
1	長期借入金	1,701		1,354		1,533		
2	繰延税金負債	26,570		33,859		36,145		
3	退職給付引当金	65,468		10,468		35,062		
4	役員退職慰労引当金	2,800		408		1,037		
5	土壌浄化対策引当金	4,532		2,545		3,956		
6	その他	6,168		8,324		5,441		
	固定負債合計	107,241	6.6	56,961	3.8	83,176	5.1	
	負債合計	350,443	21.5	245,537	16.2	364,687	22.3	
(純資産の部)								
I 株主資本								
1	資本金	50,000	3.1	50,000	3.3	50,000	3.1	
2	資本剰余金	179,859	11.0	179,862	11.9	179,860	11.0	
3	利益剰余金	981,690	60.0	1,012,891	66.8	971,483	59.3	
4	自己株式	△9,909	△0.6	△43,354	△2.9	△9,997	△0.6	
	株主資本合計	1,201,640	73.5	1,199,399	79.1	1,191,346	72.8	
II 評価・換算差額等								
1	その他有価証券評価差額金	76,455	4.7	62,470	4.1	72,358	4.4	
2	為替換算調整勘定	2,337	0.1	4,947	0.4	4,951	0.3	
	評価・換算差額等合計	78,792	4.8	67,418	4.5	77,310	4.7	
III 少数株主持分								
	純資産合計	1,284,040	78.5	1,270,273	83.8	1,272,148	77.7	
	負債純資産合計	1,634,483	100.0	1,515,811	100.0	1,636,835	100.0	

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

(2) 中間連結損益計算書

区分	注記 番号	前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)		当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)		対前中間 期比	増減 (百万円)	前連結会計年度の 要約連結損益計算書 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)			
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)			金額 (百万円)	百分比 (%)		
I 売上高			485,842	100.0		443,708	100.0	△42,133	929,506	100.0	
II 売上原価			138,022	28.4		113,204	25.5	△24,817	265,200	28.5	
売上総利益			347,820	71.6		330,504	74.5	△17,315	664,306	71.5	
III 販売費及び一般管理 費											
1. 広告宣伝費及び販 売促進費		51,840			50,648			100,672			
2. 給料・賞与及び手 当		54,233			46,764			104,123			
3. 退職給付費用		3,704			—			7,553			
4. 研究開発費		84,939			78,258			170,662			
5. その他		74,748	269,466	55.5	60,921	236,593	53.3	△32,873	144,980	527,992	56.8
営業利益			78,353	16.1		93,911	21.2	15,557	136,313	14.7	
IV 営業外収益											
1. 受取利息		3,967			4,361			7,725			
2. 受取配当金		2,631			1,969			3,547			
3. 金融派生商品収益		2,309			—			2,639			
4. その他		2,618	11,526	2.4	2,358	8,688	1.9	△2,837	6,088	20,001	2.2
V 営業外費用											
1. 支払利息		118			107			251			
2. 休止設備償却費		—			402			—			
3. 賃貸用資産費用		—			352			—			
4. 寄付金		406			—			592			
5. たな卸資産処分損 及び評価損		200			—			1,485			
6. 貸倒引当金繰入額		197			—			—			
7. その他		747	1,671	0.3	1,041	1,903	0.4	232	1,899	4,228	0.5
経常利益			88,208	18.2		100,696	22.7	12,487	152,086	16.4	



第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

区分	注記 番号	前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)			当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)			対前中間 期比	前連結会計年度の 要約連結損益計算書 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)		
		金額 (百万円)		百分比 (%)	金額 (百万円)		百分比 (%)		増減 (百万円)	金額 (百万円)	
VI 特別利益											
1. 固定資産売却益	※1	1,619			1,347				4,314		
2. 関係会社株式処分 益		20,550			2,293				59,347		
3. 投資有価証券売却 益		713			255				8,221		
4. 退職給付制度移行 益		—			61				—		
5. 過年度研究開発費 精算益		1,608	24,492	5.0	—	3,957	0.9	△20,534	1,608	73,492	7.9
VII 特別損失											
1. 固定資産処分損	※2	1,605			763				3,622		
2. 事業統合関連損失	※3	7,812			4,009				82,479		
3. 偶発損失引当金繰 入額	※4	13			808				166		
4. 事業再編関連損失	※5	1,870			575				3,609		
5. 土壌浄化対策引当 金繰入額		1,685			513				2,875		
6. 減損損失	※6	735			—				4,916		
7. 投資有価証券評価 損		318			—				686		
8. 特別退職加算金		287			—				287		
9. 投資有価証券売却 損		—	14,327	3.0	—	6,670	1.5	△7,657	22	98,666	10.6
税金等調整前中間 (当期) 純利益			98,373	20.2		97,983	22.1	△390		126,912	13.7
法人税、住民税及 び事業税	※7	52,312			28,726				64,710		
法人税等調整額	※7	△20,883	31,428	6.4	9,023	37,749	8.5	6,320	△16,631	48,078	5.2
少数株主損益			58	0.0		△9	△0.0	△67		283	0.0
中間(当期) 純利 益			66,886	13.8		60,243	13.6	△6,642		78,549	8.5

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

(3) 中間連結株主資本等変動計算書

前中間連結会計期間（自2006年4月1日 至2006年9月30日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2006年3月31日 残高 (百万円)	50,000	179,858	936,513	△9,832	1,156,539
中間連結会計期間中の変動額					
剰余金の配当(注)			△18,226		△18,226
役員賞与(注)			△343		△343
中間純利益			66,886		66,886
自己株式処分差益		1			1
自己株式の取得				△81	△81
自己株式の処分				4	4
連結子会社の新規連結に伴う剰余金減少高			△3,007		△3,007
持分法適用会社の除外に伴う剰余金減少高			△131		△131
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)					
中間連結会計期間中の変動額合計 (百万円)	—	1	45,177	△77	45,100
2006年9月30日 残高 (百万円)	50,000	179,859	981,690	△9,909	1,201,640

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等 合計		
2006年3月31日 残高 (百万円)	80,254	735	80,989	11,609	1,249,138
中間連結会計期間中の変動額					
剰余金の配当(注)					△18,226
役員賞与(注)					△343
中間純利益					66,886
自己株式処分差益					1
自己株式の取得					△81
自己株式の処分					4
連結子会社の新規連結に伴う剰余金減少高					△3,007
持分法適用会社の除外に伴う剰余金減少高					△131
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額(純額)	△3,799	1,601	△2,197	△8,001	△10,199
中間連結会計期間中の変動額合計 (百万円)	△3,799	1,601	△2,197	△8,001	34,901
2006年9月30日 残高 (百万円)	76,455	2,337	78,792	3,607	1,284,040

(注) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

当中間連結会計期間（自2007年4月1日 至2007年9月30日）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2007年3月31日 残高 (百万円)	50,000	179,860	971,483	△9,997	1,191,346
中間連結会計期間中の変動額					
剰余金の配当			△21,870		△21,870
中間純利益			60,243		60,243
自己株式の取得				△33,362	△33,362
自己株式の処分		1		4	6
連結子会社の新規連結に伴う剰余金増加高			141		141
非連結子会社との合併に伴う剰余金増加高			2,893		2,893
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額（純額）					
中間連結会計期間中の変動額合計 (百万円)	—	1	41,408	△33,357	8,052
2007年9月30日 残高 (百万円)	50,000	179,862	1,012,891	△43,354	1,199,399

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等 合計		
2007年3月31日 残高 (百万円)	72,358	4,951	77,310	3,491	1,272,148
中間連結会計期間中の変動額					
剰余金の配当					△21,870
中間純利益					60,243
自己株式の取得					△33,362
自己株式の処分					6
連結子会社の新規連結に伴う剰余金増加高					141
非連結子会社との合併に伴う剰余金増加高					2,893
株主資本以外の項目の中間連結会計期間中の変動額（純額）	△9,888	△3	△9,891	△35	△9,927
中間連結会計期間中の変動額合計 (百万円)	△9,888	△3	△9,891	△35	△1,874
2007年9月30日 残高 (百万円)	62,470	4,947	67,418	3,455	1,270,273

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

前連結会計年度の連結株主資本等変動計算書 (自2006年4月1日 至2007年3月31日)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
2006年3月31日 残高 (百万円)	50,000	179,858	936,513	△9,832	1,156,539
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当(注)			△18,226		△18,226
剰余金の配当			△21,870		△21,870
役員賞与(注)			△343		△343
当期純利益			78,549		78,549
自己株式の取得				△172	△172
自己株式の処分		2		7	10
連結子会社の新規連結に伴う剰余金減少高			△3,007		△3,007
持分法適用会社の除外に伴う剰余金減少高			△131		△131
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)					
連結会計年度中の変動額合計 (百万円)	—	2	34,970	△164	34,807
2007年3月31日 残高 (百万円)	50,000	179,860	971,483	△9,997	1,191,346

	評価・換算差額等			少数株主持分	純資産合計
	其他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	評価・換算差額等 合計		
2006年3月31日 残高 (百万円)	80,254	735	80,989	11,609	1,249,138
連結会計年度中の変動額					
剰余金の配当(注)					△18,226
剰余金の配当					△21,870
役員賞与(注)					△343
当期純利益					78,549
自己株式の取得					△172
自己株式の処分					10
連結子会社の新規連結に伴う剰余金減少高					△3,007
持分法適用会社の除外に伴う剰余金減少高					△131
株主資本以外の項目の連結会計年度中の変動額(純額)	△7,895	4,216	△3,679	△8,118	△11,797
連結会計年度中の変動額合計 (百万円)	△7,895	4,216	△3,679	△8,118	23,009
2007年3月31日 残高 (百万円)	72,358	4,951	77,310	3,491	1,272,148

(注) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

(4) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

		前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	対前中間期 比	前連結会計年度の要約連結 キャッシュ・フロー計算書 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減 (百万円)	金額 (百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー					
税金等調整前中間 (当期) 純利益		98,373	97,983		126,912
減価償却費		19,732	18,803		39,986
減損損失		735	—		4,916
のれん償却額		1,788	1,802		3,595
貸倒引当金の増減額 (減少: △)		287	71		5
退職給付引当金の増減額 (減少: △)		△535	△24,576		△28,547
前払年金費用の増減額 (増加: △)		390	14,275		△714
受取利息及び受取配当金		△6,598	△6,330		△11,273
支払利息		118	107		251
固定資産除売却損益		△13	△583		△692
持分法による投資損益 (益: △)		△18	△36		17
売上債権の増減額 (増加: △)		5,500	4,580		16,794
たな卸資産の増減額 (増加: △)		4,635	△665		1,684
仕入債務の増減額 (減少: △)		△5,171	△8,147		3,294
未払金及び未払費用の増減額 (減少: △)		—	△64,990		56,551
その他		△10,754	△9,008		△55,247
小計		108,469	23,286	△85,183	157,537
利息及び配当金の受取額		6,488	6,824		11,099
利息の支払額		△118	△107		△251
法人税等の支払額		△45,131	△36,838		△61,954
営業活動によるキャッシュ・フロー		69,708	△6,834	△76,543	106,429
II 投資活動によるキャッシュ・フロー					
定期預金の預入による支出		△5,704	△2,453		△6,620
定期預金の払戻による収入		2,653	704		5,403
有価証券の取得による支出		△83,249	△58,645		△148,217
有価証券の売却による収入		80,180	69,309		165,048
有形固定資産の取得による支出		△11,224	△13,765		△28,066
有形固定資産の売却による収入		3,572	1,464		11,449
無形固定資産の取得による支出		△2,963	△388		△14,886
投資有価証券の取得による支出		△19,623	△15,888		△37,482
投資有価証券の売却による収入		4,787	12,929		14,157
新規連結子会社株式の取得による 支出		△27,210	—		△27,210
連結の範囲の変更を伴う子会社株 式の売却による収入		24,865	8,796		91,019
短期貸付金の純増減額 (増加: △)		—	8,000		16,136
貸付けによる支出		△327	△150		△1,365
貸付金の回収による収入		593	836		5,893
その他		924	△5,137		45
投資活動によるキャッシュ・フロー		△32,726	5,610	38,337	45,305

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

		前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	対前中間期 比	前連結会計年度の要約連結 キャッシュ・フロー計算書 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
区分	注記 番号	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減 (百万円)	金額 (百万円)
III 財務活動によるキャッシュ・フロー					
短期借入金の純増減額 (減少: △)		△4,011	△4,050		1,312
長期借入金の返済による支出		△180	△134		△297
自己株式の取得による支出		△81	△33,362		△172
配当金の支払額		△18,195	△21,862		△40,049
その他		△681	△81		△1,561
財務活動によるキャッシュ・フロー		△23,150	△59,491	△36,341	△40,768
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額		160	△89	△249	399
V 現金及び現金同等物の増減額 (減少: △)		13,992	△60,804	△74,797	111,365
VI 現金及び現金同等物の期首残高		400,967	513,211	112,243	400,967
VII 連結範囲の変更による増減額 (減少: △)		877	501	△376	877
VIII 非連結子会社との合併に伴う増加額		—	1,028	1,028	—
IX 現金及び現金同等物の中間期末 (期 末) 残高		415,838	453,936	38,098	513,211

中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項

項目	前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
1. 連結の範囲に関する事項	<p>(1) 連結子会社 54社                      主要な連結子会社名                      (国内)                      三共(株)、第一製薬(株)、第一アスピオファーマ(株)、第一ファインケミカル(株)、(株)第一ラジオアイソトープ研究所、第一化学薬品(株)、ゼファーマ(株)、第一ファルマテック(株)、第一三共ヘルスケア(株)、三共アグロ(株)、日本乳化剤(株)、三共ライフテック(株)                      (海外)                      第一三共INC.、ルイトポルド・ファーマシューティカルズIn c.、第一三共ヨーロッパGmbH                      なお、三共(株)の連結子会社であった和光堂(株)、和光食品工業(株)、和光物流(株)、(株)日本小児医事出版社、富士製粉(株)及び Oy 三共ファルマ・フィンランドAbを株式の売却等により、期首において連結から除外しておりますが、利益剰余金期首残高には含めております。                      三共(株)の非連結子会社であった上海三共製薬有限公司及び台湾三共製薬股份有限公司は、重要性が増したため、期首において新規連結しております。                      また、当中間連結会計期間において取得したゼファーマ(株)を、期首において新規連結しております。                      三共(株)の連結子会社である三共ファルマGmbHは、第一三共ヨーロッパGmbHに社名変更しております。</p> <p>(2) 非連結子会社 (三共保険エージェンシー(株)、ゴードー不動産(株)他)は、小規模会社であり、総資産、売上高、中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも中間連結財務諸表に対する影響が軽微であるため、連結の範囲から除外しております。</p>	<p>(1) 連結子会社 46社                      主要な連結子会社名                      (国内)                      アスピオファーマ(株)、第一三共ヘルスケア(株)、第一三共プロファーマ(株)、日本乳化剤(株)                      (海外)                      第一三共INC.、ルイトポルド・ファーマシューティカルズIn c.、第一三共ヨーロッパGmbH                      なお、当中間連結会計期間において、当社が三共(株)及び第一製薬(株)を吸収合併いたしました。                      また、第一三共ヘルスケア(株)とゼファーマ(株)の合併、第一三共プロファーマ(株)と第一ファルマテック(株)の合併などの組織再編を行っており、連結子会社が6社減少しております。                      第一ファインケミカル(株)他2社を株式の売却等により、期首において連結から除外しておりますが、利益剰余金期首残高には含めております。                      第一三共ブラジルLtda.及び第一三共ベネズエラS.A.は、重要性が増したため、期首において新規連結しております。                      当中間連結会計期間において設立した第一三共インドLtd.を新規連結しております。</p> <p>(2) 非連結子会社 (南九州樹皮工業所他)は、小規模会社であり、総資産、売上高、中間純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも中間連結財務諸表に対する影響が軽微であるため、連結の範囲から除外しております。</p>	<p>(1) 連結子会社 54社                      主要な連結子会社名                      (国内)                      三共(株)、第一製薬(株)、第一アスピオファーマ(株)、第一ファインケミカル(株)、ゼファーマ(株)、第一ファルマテック(株)、第一三共ヘルスケア(株)、日本乳化剤(株)                      (海外)                      第一三共INC.、ルイトポルド・ファーマシューティカルズIn c.、第一三共ヨーロッパGmbH                      なお、和光堂(株)、富士製粉(株)他4社を株式の売却等により、期首において連結の範囲から除外しておりますが、利益剰余金期首残高には含めております。                      三共アグロ(株)、(株)第一ラジオアイソトープ研究所、第一化学薬品(株)他4社は、株式を売却したため、期中において連結の範囲から除外しております。                      また、非連結子会社であった上海三共製薬有限公司及び台湾三共製薬股份有限公司は、重要性が増したため、期首において新規連結しております。当連結会計年度において取得したゼファーマ(株)を、期首において新規連結しております。当連結会計年度において設立した第一三共プロファーマ(株)他6社を新規連結しております。</p> <p>(2) 非連結子会社 (三共保険エージェンシー(株)、ゴードー不動産(株)他)は、小規模会社であり、総資産、売上高、当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等は、いずれも連結財務諸表に対する影響が軽微であるため、連結の範囲から除外しております。</p>

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

項目	前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
2. 持分法の適用に関する事項	<p>(1) 持分法適用の非連結子会社 0社 持分法適用の関連会社 3社 主要な会社名 サノフィバストゥール第一ワクチン㈱</p> <p>(2) 持分法適用外の非連結子会社 (三共保険エージェンシー㈱、ゴードー不動産㈱他) 及び関連会社 (㈱東京薬業会館他) は、それぞれ中間連結純損益及び連結利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、全体として中間連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、持分法の適用から除外しております。</p>	<p>(1) 持分法適用の非連結子会社 0社 持分法適用の関連会社 3社 主要な会社名 サノフィバストゥール第一三共ワクチン㈱</p> <p>(2) 持分法適用外の非連結子会社 (㈱九州樹皮工業所他) 及び関連会社 (㈱東京薬業会館他) は、それぞれ中間連結純損益及び連結利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、全体として中間連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、持分法の適用から除外しております。</p>	<p>(1) 持分法適用の非連結子会社 0社 持分法適用の関連会社 3社 主要な会社名 サノフィバストゥール第一ワクチン㈱ なお、株式の売却による持分の減少により、関連会社2社を持分法の適用から除外しております。</p> <p>(2) 持分法適用外の非連結子会社 (三共保険エージェンシー㈱、ゴードー不動産㈱他) 及び関連会社 (㈱東京薬業会館他) は、それぞれ連結純損益及び連結利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、全体として連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、持分法の適用から除外しております。</p>
3. 連結子会社の中間決算日(決算日)等に関する事項	<p>連結子会社のうち、中間決算日が6月30日の会社については、中間連結財務諸表の作成にあたって、同決算日現在の中間財務諸表を使用しております。ただし、中間連結決算日との間に重要な取引が生じた場合、連結上必要な調整を行っております。</p> <p>(中間決算日が6月30日の会社) 第一アスピオ・ファーマシューティカルズInc.、第一三共ヨーロッパGmbH及び子会社11社、第一製薬(北京)有限公司他7社</p> <p>(追加情報) 第一三共INC.及びリイトボルド・ファーマシューティカルズInc.は、当連結会計年度より決算期を12月31日から3月31日に変更しております。 そのため、両社は前連結会計年度において2005年12月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、この決算期の変更により当中間連結会計期間は、2006年1月1日から2006年9月30日までの9ヶ月決算となっております。 この決算期変更による当中間連結損益計算書への影響額は、売上高、営業利益、経常利益、税金等調整前中間純利益及び中間純利益が、それぞれ31,514百万円、9,030百万円、10,575百万円、9,587百万円及び5,830百万円の増加となっております。</p>	<p>連結子会社のうち、中間決算日が6月30日の会社については、中間連結財務諸表の作成にあたって、同決算日現在の中間財務諸表を使用しております。ただし、中間連結決算日との間に重要な取引が生じた場合、連結上必要な調整を行っております。</p> <p>(中間決算日が6月30日の会社) 第一製薬(北京)有限公司、上海三共有限公司、第一三共ブラジルLtda.他5社</p> <p>(追加情報) 第一三共ヨーロッパGmbH及び子会社11社、その他2社は、当連結会計年度より決算期を12月31日から3月31日に変更しております。 そのため、前連結会計年度において2006年12月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、この決算期の変更により当中間連結会計期間は、2007年1月1日から2007年9月30日までの9ヶ月決算となっております。 この決算期変更による当中間連結損益計算書への影響額は、売上高、営業利益、経常利益、税金等調整前中間純利益及び中間純利益が、それぞれ14,129百万円、1,886百万円、2,169百万円、2,161百万円及び2,027百万円の増加となっております。</p>	<p>連結子会社のうち、決算日が12月31日の会社については、連結財務諸表の作成にあたって、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日との間に重要な取引が生じた場合、連結上必要な調整を行っております。</p> <p>(決算日が12月31日の会社) 第一アスピオ・ファーマシューティカルズInc.、第一三共ヨーロッパGmbH及び子会社11社、第一製薬(北京)有限公司、上海三共有限公司他5社</p> <p>(追加情報) 第一三共INC.及びリイトボルド・ファーマシューティカルズInc.は、当連結会計年度より決算期を12月31日から3月31日に変更しております。 そのため、両社は前連結会計年度において2005年12月31日現在の財務諸表を使用しておりますが、この決算期の変更により当連結会計年度は、2006年1月1日から2007年3月31日までの15ヶ月決算となっております。 この決算期変更による当連結損益計算書への影響額は、売上高、営業利益、経常利益、税金等調整前当期純利益及び当期純利益が、それぞれ31,514百万円、9,030百万円、10,575百万円、9,587百万円及び5,830百万円の増加となっております。</p>



第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

項目	前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
<p>4. 会計処理基準に関する事項</p> <p>(イ) 重要な資産の評価基準及び評価方法</p>	<p>(1) 有価証券 満期保有目的の債券 …主として償却原価法(定額法) その他有価証券 時価のあるもの …主として中間決算時の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定) 時価のないもの …主として移動平均法による原価法</p> <p>(2) デリバティブ …時価法</p> <p>(3) たな卸資産 …主として総平均法による低価法</p>	<p>(1) 有価証券 満期保有目的の債券 …同左</p> <p>その他有価証券 時価のあるもの …同左</p> <p>時価のないもの …同左</p> <p>(2) デリバティブ …同左</p> <p>(3) たな卸資産 通常の販売目的で使用するたな卸資産 …総平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)</p> <p>(会計方針の変更) 「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号平成18年7月5日)が2008年3月31日以前に開始する連結会計年度に係る連結財務諸表から適用できることになったことに伴い、当中間連結会計期間より同会計基準を適用しております。 これにより、営業利益は1,705百万円、経常利益、税金等調整前中間純利益は、それぞれ1,462百万円減少しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>	<p>(1) 有価証券 満期保有目的の債券 …同左</p> <p>その他有価証券 時価のあるもの …主として決算時の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定) 時価のないもの …同左</p> <p>(2) デリバティブ …同左</p> <p>(3) たな卸資産 …主として総平均法による低価法</p>
<p>(ロ) 重要な減価償却資産の減価償却の方法</p>	<p>(1) 有形固定資産 …当社及び国内連結子会社は、定率法によっております。 ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)については定額法によっております。 在外連結子会社は、主として定額法によっております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。 建物及び構築物 15～50年 機械装置及び運搬具 4～7年</p>	<p>(1) 有形固定資産 …同左</p>	<p>(1) 有形固定資産 …同左</p>

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

項目	前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
<p>(ハ) 重要な引当金の計上基準</p>	<p>(2) 無形固定資産 …定額法によっております。 なお、将来の費用削減効果が確実な自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。</p> <p>(1) 貸倒引当金 売上債権、貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。</p>	<p>(会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当中間連結会計期間より、2007年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前中間純利益は、それぞれ244百万円減少しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>(追加情報) 当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、2007年3月31日以前に取得した有形固定資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。 この結果、従来の方法に比べ、営業利益は811百万円、経常利益、税金等調整前中間純利益は、それぞれ818百万円減少しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>(2) 無形固定資産 …同左</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p>	<p>(2) 無形固定資産 …同左</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p>

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

項目	前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
	<p>(2) 返品調整引当金 連結子会社の三共㈱、第一製菓㈱及びその他一部の連結子会社は、中間連結会計期間末日後の返品損失に備えるため、将来の返品見込額に対し、売上利益及び廃棄損失相当額の合計額を計上しております。 なお、繰入額611百万円は売上原価で処理しております。</p> <p>(3) 売上割戻引当金 連結子会社の三共㈱、第一製菓㈱及びその他一部の連結子会社は、将来の売上割戻に備えるため、中間連結会計期間末特約店在庫金額及び中間連結会計期間末売掛金額に対し支出見込率を乗じた額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 国内連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。 一部の在外連結子会社は、所在地国における一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき計上しております。 過去勤務債務は、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年～10年）による定額法により費用処理しております。 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年～10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。ただし、連結子会社の三共㈱は発生時に全額を費用処理しております。</p>	<p>(2) 返品調整引当金 当社及びその他一部の連結子会社は、中間連結会計期間末日後の返品損失に備えるため、将来の返品見込額に対し、売上利益及び廃棄損失相当額の合計額を計上しております。 なお、戻入額236百万円は売上原価で処理しております。</p> <p>(3) 売上割戻引当金 当社及びその他一部の連結子会社は、将来の売上割戻に備えるため、中間連結会計期間末特約店在庫金額及び中間連結会計期間末売掛金額に対し支出見込率を乗じた額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 当社及び国内連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。 一部の在外連結子会社は、所在地国における一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき計上しております。 過去勤務債務は、発生時から1年（12ヶ月）で費用処理しております。 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。</p> <p>(会計方針の変更) 当社及び国内連結子会社の一部は、今般の企業再編に伴い2007年4月1日付で退職金・年金制度を統一し、確定給付企業年金法に基づく類似キャッシュバランスプラン型退職年金制度の導入及び退職金の20%を確定拠出年金制度に移行を行う等の退職金・年金制度の見直しを実施いたしました。</p>	<p>(2) 返品調整引当金 連結子会社の三共㈱、第一製菓㈱及びその他一部の連結子会社は、連結会計年度末日後の返品損失に備えるため、将来の返品見込額に対し、売上利益及び廃棄損失相当額の合計額を計上しております。 なお、繰入額380百万円は売上原価で処理しております。</p> <p>(3) 売上割戻引当金 連結子会社の三共㈱、第一製菓㈱及びその他一部の連結子会社は、将来の売上割戻に備えるため、連結会計期間末特約店在庫金額及び連結会計期間末売掛金額に対し支出見込率を乗じた額を計上しております。</p> <p>(4) 退職給付引当金 国内連結子会社は、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 一部の在外連結子会社は、所在地国における一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき計上しております。 過去勤務債務は、発生時の従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年～10年）による定額法により費用処理しております。 数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年～10年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の日連結会計年度から費用処理しております。ただし、連結子会社の三共㈱は発生時に全額を費用処理しております。</p>

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

項目	前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
		<p>三共(株)及び第一製薬(株)の第一三共(株)への合併を契機とした当該制度の見直しにより多額の過去勤務債務が発生しましたが、今後はしばらく多額の発生が見込まれず、企業再編による効果も早期に発現することが見込まれることから、適切に退職給付制度の状況を適時に連結財務諸表へ反映させるため、企業再編前の主な事業会社である三共(株)では5年、第一製薬(株)及び第一アスピオファーマ(株)では10年としていた過去勤務債務の償却方法について、当中間連結会計期間より、再編後の第一三共(株)及びアスピオファーマ(株)等において発生時から1年(12ヶ月)で償却する方法に変更いたしました。</p> <p>また、数理計算上の差異は、企業再編を機に退職金・年金制度を統一したため、また近時公定歩合の引き上げ、株式市場の堅調等、年金資産を取り巻く環境は好転しつつあるものの、当該統合により年金資産額が大幅に増加したことにより一層市場環境の影響を大きく受け、単年度の損益に著しい影響を与えることが想定されることから期間損益計算の適正性を確保するため、企業再編前の主な事業会社である三共(株)では発生年度に一括費用処理、第一製薬(株)では10年としていた数理計算上の差異の処理方法については、当中間連結会計期間より、従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(10年)による定額法により処理する方法に変更いたしました。</p> <p>この変更に伴い、前連結会計年度までに発生した過去勤務債務の未償却残高231百万円については特別利益として計上した結果、従来と同一の基準によった場合と比較し、営業利益及び経常利益はいずれも3,976百万円多く計上され、税金等調整前当期純利益は4,208百万円多く計上されております。</p> <p>なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>	

なお、上記に記載した中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項以外は、最近の半期報告書(2006年12月13日提出)における記載から重要な変更がないため、開示を省略しております。

表示方法の変更

<p>前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)</p>	<p>当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)</p>
<p>(中間連結貸借対照表) 前中間連結会計期間において「連結調整勘定」として掲記されていたものは、当中間連結会計期間より「のれん」と表示していません。</p> <p>(中間連結損益計算書) 営業外費用の「貸倒引当金繰入額」は、前中間連結会計期間は「その他」に含めて表示しておりましたが、営業外費用の総額の100分の10を超えたため区分掲記しております。 なお、前中間連結会計期間の営業外費用の「その他」に含まれている「貸倒引当金繰入額」は8百万円であります。</p> <p>前中間連結会計期間において区分掲記しておりました営業外費用の「持分法による投資損失」は、当中間連結会計期間では持分法による投資利益となり、営業外収益の総額の100分の10を下回っているため、営業外収益の「その他」に含めて表示しております。 なお、当中間連結会計期間の「持分法による投資利益」は18百万円であります。</p>	<p>(中間連結貸借対照表) 前中間連結会計期間において「現金及び預金」に含めておりました「譲渡性預金」及び区分掲記しておりました「抵当証券」は、会計制度委員会報告第14号「金融商品会計に関する実務指針」(平成19年7月4日)において有価証券として取り扱うこととされたため、当中間連結会計期間より「有価証券」に含めて表示していません。 なお、「譲渡性預金」の残高は、前中間連結会計期間は87,500百万円、当中間連結会計期間は35,000百万円であります。また、当中間連結会計期間の「抵当証券」は15,000百万円であります。</p> <p>(中間連結損益計算書) 前中間連結会計期間において区分掲記しておりました販売費及び一般管理費の「退職給付費用」は、当中間連結会計期間では重要性が減少したため、販売費及び一般管理費の「その他」に含めて表示してあります。 なお、当中間連結会計期間の「退職給付費用」は52百万円であります。</p> <p>前中間連結会計期間において区分掲記しておりました営業外収益の「金融派生商品収益」は、当中間連結会計期間では金融派生商品費用となり、営業外費用の総額の100分の10を下回っているため、営業外費用の「その他」に含めて表示してあります。 なお、当中間連結会計期間の「金融派生商品費用」は18百万円であります。</p> <p>営業外費用の「休止設備償却費」は、前中間連結会計期間は「その他」に含めて表示しておりましたが、当中間連結会計期間では営業外費用の総額の100分の10を超えたため、区分掲記してあります。 なお、前中間連結会計期間の営業外費用の「その他」に含まれている「休止設備償却費」は19百万円であります。</p> <p>営業外費用の「賃貸用資産費用」は、前中間連結会計期間は「その他」に含めて表示しておりましたが、当中間連結会計期間では重要性が増したため、区分掲記してあります。 なお、前中間連結会計期間の営業外費用の「その他」に含まれている「賃貸用資産費用」は185百万円であります。</p>
<p>(中間連結キャッシュ・フロー計算書) 前中間連結会計期間において「連結調整勘定償却額」として掲記されていたものは、当中間連結会計期間より「のれん償却額」と表示してあります。</p>	<p>(中間連結キャッシュ・フロー計算書) 営業活動によるキャッシュ・フローの「未払金及び未払費用の増減額」は、前中間連結会計期間は「その他」に含めて表示しておりましたが、当中間連結会計期間では重要性が増したため、区分掲記してあります。 なお、前中間連結会計期間の営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含まれている「未払金及び未払費用の増減額」は781百万円であります。</p>

(中間連結損益計算書関係)

前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)																														
<p>※1. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>建物及び構築物</td><td>5百万円</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>6</td></tr> <tr><td>土地</td><td>1,604</td></tr> <tr><td>有形固定資産のその他</td><td>2</td></tr> </table>	建物及び構築物	5百万円	機械装置及び運搬具	6	土地	1,604	有形固定資産のその他	2	<p>※1. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>6百万円</td></tr> <tr><td>土地</td><td>1,329</td></tr> <tr><td>有形固定資産のその他</td><td>11</td></tr> </table>	機械装置及び運搬具	6百万円	土地	1,329	有形固定資産のその他	11	<p>※1. 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>建物及び構築物</td><td>11百万円</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>13</td></tr> <tr><td>土地</td><td>4,286</td></tr> <tr><td>有形固定資産のその他</td><td>2</td></tr> </table>	建物及び構築物	11百万円	機械装置及び運搬具	13	土地	4,286	有形固定資産のその他	2								
建物及び構築物	5百万円																															
機械装置及び運搬具	6																															
土地	1,604																															
有形固定資産のその他	2																															
機械装置及び運搬具	6百万円																															
土地	1,329																															
有形固定資産のその他	11																															
建物及び構築物	11百万円																															
機械装置及び運搬具	13																															
土地	4,286																															
有形固定資産のその他	2																															
<p>※2. 固定資産処分損の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>建物及び構築物</td><td>259百万円</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>318</td></tr> <tr><td>土地</td><td>825</td></tr> <tr><td>有形固定資産のその他</td><td>47</td></tr> </table>	建物及び構築物	259百万円	機械装置及び運搬具	318	土地	825	有形固定資産のその他	47	<p>※2. 固定資産処分損の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>建物及び構築物</td><td>399百万円</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>181</td></tr> <tr><td>有形固定資産のその他</td><td>55</td></tr> <tr><td>無形固定資産のその他</td><td>6</td></tr> </table>	建物及び構築物	399百万円	機械装置及び運搬具	181	有形固定資産のその他	55	無形固定資産のその他	6	<p>※2. 固定資産処分損の内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>建物及び構築物</td><td>1,075百万円</td></tr> <tr><td>機械装置及び運搬具</td><td>798</td></tr> <tr><td>土地</td><td>899</td></tr> <tr><td>有形固定資産のその他</td><td>327</td></tr> <tr><td>無形固定資産のその他</td><td>25</td></tr> </table>	建物及び構築物	1,075百万円	機械装置及び運搬具	798	土地	899	有形固定資産のその他	327	無形固定資産のその他	25				
建物及び構築物	259百万円																															
機械装置及び運搬具	318																															
土地	825																															
有形固定資産のその他	47																															
建物及び構築物	399百万円																															
機械装置及び運搬具	181																															
有形固定資産のその他	55																															
無形固定資産のその他	6																															
建物及び構築物	1,075百万円																															
機械装置及び運搬具	798																															
土地	899																															
有形固定資産のその他	327																															
無形固定資産のその他	25																															
<p>上記の他、除却費用が153百万円であります。</p>	<p>上記の他、除却費用が120百万円であります。</p>	<p>上記の他、除却費用が497百万円であります。</p>																														
<p>※3. 事業統合関連損失</p> <p>当社グループにおける三共グループと第一製薬グループとの医薬品事業統合に伴う一時費用であり、その主な内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>海外事業統合関連費用</td><td>2,946百万円</td></tr> <tr><td>ヘルスケア事業統合関連費用</td><td>646</td></tr> <tr><td>システム費用</td><td>2,808</td></tr> <tr><td>その他調査費用等</td><td>1,410</td></tr> </table>	海外事業統合関連費用	2,946百万円	ヘルスケア事業統合関連費用	646	システム費用	2,808	その他調査費用等	1,410	<p>※3. 事業統合関連損失</p> <p>当社グループにおける旧三共グループと旧第一製薬グループとの医薬品事業統合に伴う一時費用であり、その主な内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>割増退職金等</td><td>466百万円</td></tr> <tr><td>システム費用</td><td>1,776</td></tr> <tr><td>拠点統廃合関連費用</td><td>743</td></tr> <tr><td>ヘルスケア事業統合関連費用</td><td>156</td></tr> <tr><td>その他</td><td>867</td></tr> </table>	割増退職金等	466百万円	システム費用	1,776	拠点統廃合関連費用	743	ヘルスケア事業統合関連費用	156	その他	867	<p>※3. 事業統合関連損失</p> <p>当社グループにおける三共グループと第一製薬グループとの医薬品事業統合に伴う一時費用であり、その主な内訳は次のとおりであります。</p> <table border="0"> <tr><td>割増退職金等</td><td>54,211百万円</td></tr> <tr><td>システム費用</td><td>11,096</td></tr> <tr><td>拠点統廃合関連費用</td><td>3,255</td></tr> <tr><td>海外事業統合関連費用</td><td>3,225</td></tr> <tr><td>ヘルスケア事業統合関連費用</td><td>3,353</td></tr> <tr><td>その他調査費用等</td><td>7,336</td></tr> </table>	割増退職金等	54,211百万円	システム費用	11,096	拠点統廃合関連費用	3,255	海外事業統合関連費用	3,225	ヘルスケア事業統合関連費用	3,353	その他調査費用等	7,336
海外事業統合関連費用	2,946百万円																															
ヘルスケア事業統合関連費用	646																															
システム費用	2,808																															
その他調査費用等	1,410																															
割増退職金等	466百万円																															
システム費用	1,776																															
拠点統廃合関連費用	743																															
ヘルスケア事業統合関連費用	156																															
その他	867																															
割増退職金等	54,211百万円																															
システム費用	11,096																															
拠点統廃合関連費用	3,255																															
海外事業統合関連費用	3,225																															
ヘルスケア事業統合関連費用	3,353																															
その他調査費用等	7,336																															
<p>※4. 偶発損失引当金繰入額</p> <p>最低購入数量の規定がある商品購入契約に係る、将来の違約金等の損失見積額であります。</p>	<p>※4. 偶発損失引当金繰入額</p> <p>最低購入数量又は最低販売数量の規定がある契約に係る、将来の違約金等の損失見積額であります。</p>	<p>※4. 偶発損失引当金繰入額</p> <p>最低購入数量の規定がある商品購入契約に係る、将来の違約金等の損失見積額であります。</p>																														
<p>※5. 事業再編関連損失</p> <p>医薬品事業に集中するため、周辺事業の整理を進めており、その一環として実施した関係会社株式の売却により生じた損失及び外部のアドバイザーへの支払費用であります。</p>	<p>※5. 事業再編関連損失</p> <p>医薬品事業に集中するため、周辺事業の整理を進めており、その一環として実施した関係会社株式の売却に関する外部のアドバイザーへの支払費用等であります。</p>	<p>※5. 事業再編関連損失</p> <p>医薬品事業に集中するため、周辺事業の整理を進めており、その一環として実施した関係会社株式の売却により生じた損失及び外部のアドバイザーへの支払費用であります。</p>																														

前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)																																								
<p>※6. 減損損失</p> <p>当社グループ（当社及び連結子会社）は、事業用資産については製品の種類や営業活動の類似性、企業集団としての整合性及び将来的な管理の継続性を考慮して管理会計上の事業別損益管理区分によりグルーピングしており、また、賃貸資産及び事業の用に直接供していない遊休資産については個々にグルーピングしております。</p> <p>当中間連結会計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。</p> <table border="1" data-bbox="185 840 568 1055"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栃木県下野市</td> <td>旧栃木研究センター研究設備</td> <td>建物等</td> <td>遊休</td> </tr> <tr> <td>佐賀県鳥栖市</td> <td>旧九州物流センター物流設備</td> <td>建物及び土地等</td> <td>遊休</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記の資産グループは、遊休状態であり今後の使用見込みも未確定なため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（735百万円）として特別損失に計上いたしました。</p> <p>その内訳は、建物及び構築物482百万円、機械装置32百万円、土地215百万円、その他4百万円であります。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、鑑定評価額又は固定資産税評価額を合理的に調整した価額等に基づき算定しております。</p>	場所	用途	種類	摘要	栃木県下野市	旧栃木研究センター研究設備	建物等	遊休	佐賀県鳥栖市	旧九州物流センター物流設備	建物及び土地等	遊休	<p>※6. _____</p>	<p>※6. 減損損失</p> <p>当社グループ（当社及び連結子会社）は、事業用資産については製品の種類や営業活動の類似性、企業集団としての整合性及び将来的な管理の継続性を考慮して管理会計上の事業別損益管理区分によりグルーピングしており、また、賃貸資産及び事業の用に直接供していない遊休資産については個々にグルーピングしております。</p> <p>当連結会計期間において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上いたしました。</p> <table border="1" data-bbox="1042 840 1425 1361"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>用途</th> <th>種類</th> <th>摘要</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栃木県下野市</td> <td>旧栃木研究センター研究設備</td> <td>建物及び土地等</td> <td>遊休</td> </tr> <tr> <td>佐賀県鳥栖市</td> <td>旧九州物流センター物流設備</td> <td>建物及び土地等</td> <td>遊休</td> </tr> <tr> <td>埼玉県春日部市</td> <td>旧東京物流センター物流設備</td> <td>建物</td> <td>遊休</td> </tr> <tr> <td>福島県いわき市他</td> <td>寮・保養所</td> <td>建物及び土地</td> <td>遊休</td> </tr> <tr> <td>東京都文京区</td> <td>事務所</td> <td>建物</td> <td>遊休</td> </tr> <tr> <td>東京都品川区他</td> <td>ERPパッケージ</td> <td>ソフトウェア</td> <td>遊休</td> </tr> </tbody> </table> <p>上記の資産グループは、遊休状態であり今後の使用見込みも未確定なため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（4,916百万円）として特別損失に計上いたしました。</p> <p>その内訳は、建物及び構築物2,103百万円、機械装置32百万円、土地407百万円、有形固定資産のその他4百万円、ソフトウェア2,368百万円であります。</p> <p>なお、当資産グループの回収可能価額は正味売却価額により測定しており、鑑定評価額又は固定資産税評価額を合理的に調整した価額等に基づき算定しております。</p>	場所	用途	種類	摘要	栃木県下野市	旧栃木研究センター研究設備	建物及び土地等	遊休	佐賀県鳥栖市	旧九州物流センター物流設備	建物及び土地等	遊休	埼玉県春日部市	旧東京物流センター物流設備	建物	遊休	福島県いわき市他	寮・保養所	建物及び土地	遊休	東京都文京区	事務所	建物	遊休	東京都品川区他	ERPパッケージ	ソフトウェア	遊休
場所	用途	種類	摘要																																							
栃木県下野市	旧栃木研究センター研究設備	建物等	遊休																																							
佐賀県鳥栖市	旧九州物流センター物流設備	建物及び土地等	遊休																																							
場所	用途	種類	摘要																																							
栃木県下野市	旧栃木研究センター研究設備	建物及び土地等	遊休																																							
佐賀県鳥栖市	旧九州物流センター物流設備	建物及び土地等	遊休																																							
埼玉県春日部市	旧東京物流センター物流設備	建物	遊休																																							
福島県いわき市他	寮・保養所	建物及び土地	遊休																																							
東京都文京区	事務所	建物	遊休																																							
東京都品川区他	ERPパッケージ	ソフトウェア	遊休																																							

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
<p>※7. 中間連結会計期間に係る納付税額及び法人税等調整額は、当連結会計年度において予定している特別償却準備金及び固定資産圧縮積立金の取崩しを前提として、当中間連結会計期間に係る金額を計算しております。</p>	<p>※7. 同左</p>	<p>※7. _____</p>



第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

(中間連結株主資本等変動計算書関係)

前中間連結会計期間(自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末株式数(千株)	当中間連結会計期間増加株式数(千株)	当中間連結会計期間減少株式数(千株)	当中間連結会計期間末株式数(千株)
発行済株式				
普通株式	735,011	—	—	735,011
合計	735,011	—	—	735,011
自己株式				
普通株式	5,959	26	1	5,984
合計	5,959	26	1	5,984

- (注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加26千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。  
 2. 普通株式の自己株式の株式数の減少1千株は、単元未満株式の買増請求に応じたことによる減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2006年6月29日 定時株主総会	普通株式	18,226	25.0	2006年3月31日	2006年6月29日

(2) 基準日が当中間期に属する配当のうち、配当の効力発生日が中間期末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額(百万円)	配当の原資	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2006年11月6日 取締役会	普通株式	21,870	利益剰余金	30.0	2006年9月30日	2006年12月1日

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

当中間連結会計期間（自 2007年4月1日 至 2007年9月30日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末株式数（千株）	当中間連結会計期間増加株式数（千株）	当中間連結会計期間減少株式数（千株）	当中間連結会計期間末株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	735,011	—	—	735,011
合計	735,011	—	—	735,011
自己株式				
普通株式	6,008	10,021	2	16,028
合計	6,008	10,021	2	16,028

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加10,021千株は、会社法第165条第2項の規定による定款の定めに基づく取得10,000千株並びに単元未満株式の買取り21千株による増加であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少2千株は、単元未満株式の買増請求に応じたことによる減少であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2007年6月28日 定時株主総会	普通株式	21,870	30.0	2007年3月31日	2007年6月29日

(2) 基準日が当中間期に属する配当のうち、配当の効力発生日が中間期末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額（円）	基準日	効力発生日
2007年11月6日 取締役会	普通株式	25,164	利益剰余金	35.0	2007年9月30日	2007年12月3日

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

前連結会計年度（自 2006年4月1日 至 2007年3月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	前連結会計年度末株式数（千株）	当連結会計年度増加株式数（千株）	当連結会計年度減少株式数（千株）	当連結会計年度末株式数（千株）
発行済株式				
普通株式	735,011	—	—	735,011
合計	735,011	—	—	735,011
自己株式				
普通株式	5,959	52	3	6,008
合計	5,959	52	3	6,008

- (注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加52千株は、単元未満株式の買取りによる増加であります。  
 2. 普通株式の自己株式の株式数の減少3千株は、単元未満株式の買増請求に応じたことによる減少であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2006年6月29日 定時株主総会	普通株式	18,226	25.0	2006年3月31日	2006年6月29日
2006年11月6日 取締役会	普通株式	21,870	30.0	2006年9月30日	2006年12月1日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日
2007年6月28日 定時株主総会	普通株式	21,870	利益剰余金	30.0	2007年3月31日	2007年6月29日

(セグメント情報)

## a. 事業の種類別セグメント情報

前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)

	医薬品 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	441,381	44,460	485,842	—	485,842
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	192	2,163	2,355	(2,355)	—
計	441,574	46,623	488,198	(2,355)	485,842
営業費用	365,680	44,372	410,052	(2,564)	407,488
営業利益	75,894	2,251	78,145	208	78,353

当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)

全セグメントの売上高の合計、営業利益の合計額に占める医薬品事業の割合が、いずれも90%を超えているため、事業の種類別セグメント情報の記載を省略しております。

前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)

	医薬品 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する売上高	837,115	92,391	929,506	—	929,506
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	352	3,297	3,650	(3,650)	—
計	837,467	95,689	933,157	(3,650)	929,506
営業費用	706,098	91,312	797,411	(4,218)	793,193
営業利益	131,369	4,376	135,745	567	136,313

## (注) 1. 事業区分の方法

製品の種類、販売市場の類似性等を考慮し、区分しております。

## 2. 各事業区分に属する主要製品

医薬品…医療用医薬品、ヘルスケア品

その他…農薬、化学品 他

## 3. 会計処理方法の変更

(前中間連結会計期間)

「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、当中間連結会計期間より「役員賞与に関する会計基準」(企業会計基準第4号 平成17年11月29日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業費用は「医薬品」が126百万円、「その他」が34百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

(前連結会計年度)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より「役員賞与に関する会計基準」(企業会計基準第4号 平成17年11月29日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業費用は「医薬品」が231百万円、「その他」が74百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

b. 所在地別セグメント情報

前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	341,976	108,566	35,299	485,842	—	485,842
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	48,163	15,034	6,495	69,693	(69,693)	—
計	390,140	123,601	41,794	555,535	(69,693)	485,842
営業費用	318,497	89,720	36,016	444,235	(36,746)	407,488
営業利益	71,642	33,880	5,777	111,300	(32,946)	78,353

当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	295,374	89,703	58,630	443,708	—	443,708
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	36,746	21,594	10,098	68,439	(68,439)	—
計	332,120	111,298	68,729	512,148	(68,439)	443,708
営業費用	262,729	88,806	63,998	415,534	(65,737)	349,797
営業利益	69,391	22,491	4,730	96,613	(2,702)	93,911

前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)

	日本 (百万円)	北米 (百万円)	その他 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	667,851	191,466	70,188	929,506	—	929,506
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	81,943	41,239	17,044	140,227	(140,227)	—
計	749,795	232,706	87,232	1,069,734	(140,227)	929,506
営業費用	637,080	195,421	79,602	912,104	(118,910)	793,193
営業利益	112,714	37,285	7,630	157,630	(21,316)	136,313

(注) 1. 国又は地域の区分の方法

地理的近接度により区分しております。

2. 日本以外の各区分に属する国又は地域

北米 …… 米国

その他 … ドイツ、英国、フランス、スペイン、イタリア、中国、台湾等

3. 会計処理方法の変更

(前中間連結会計期間)

「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、当中間連結会計期間より「役員賞与に関する会計基準」(企業会計基準第4号 平成17年11月29日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、「日本」の営業費用は161百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

(当中間連結会計期間)

- ①「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、当中間連結会計期間より、「棚卸資産の評価に関する会計基準」(企業会計基準第9号 平成18年7月5日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、「日本」の営業費用は1,705百万円増加し、営業利益が同額減少しております。
- ②「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、当中間連結会計期間より、2007年4月1日以降に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、「日本」の営業費用は244百万円増加し、営業利益が同額減少しております。  
また、2007年3月31日以前に取得した有形固定資産については、改正前の法人税法に基づく減価償却の方法の適用により取得価額の5%に到達した連結会計年度の翌連結会計年度より、取得価額の5%相当額と備忘価額との差額を5年間にわたり均等償却し、減価償却費に含めて計上しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、「日本」の営業費用は811百万円増加し、営業利益が同額減少しております。
- ③「中間連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載のとおり、当社及び国内連結子会社は、退職金・年金制度の見直しを実施し、当中間連結会計期間より、過去勤務債務については、発生時から1年(12ヶ月)で償却する方法に変更し、数理計算上の差異については、当従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(10年)による定額法により処理する方法に変更しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、「日本」の営業費用は3,976百万円減少し、営業利益が同額増加しております。

(前連結会計年度)

「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項の変更」に記載のとおり、当連結会計年度より、「役員賞与に関する会計基準」(企業会計基準第4号 平成17年11月29日)を適用しております。この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、「日本」の営業費用は305百万円増加し、営業利益が同額減少しております。

c. 海外売上高

前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)

	北米	欧州	その他	計
I. 海外売上高 (百万円)	134,959	44,581	15,096	194,636
II. 連結売上高 (百万円)				485,842
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	27.8	9.2	3.1	40.1

当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)

	北米	欧州	その他	計
I. 海外売上高 (百万円)	111,208	56,739	20,550	188,498
II. 連結売上高 (百万円)				443,708
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	25.1	12.8	4.6	42.5

前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)

	北米	欧州	その他	計
I. 海外売上高 (百万円)	241,850	84,327	30,523	356,700
II. 連結売上高 (百万円)				929,506
III. 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	26.0	9.1	3.3	38.4

(注) 1. 国又は地域の区分の方法

地理的近接度により区分しております。

2. 各区分に属する主な国又は地域

北米……米国、カナダ

欧州……ドイツ、英国、スペイン、イタリア、アイルランド、フランス、スイス等

その他…アジア、中近東、中南米等

3. 海外売上高は、当社及び連結子会社の日本以外の国又は地域における売上高であります。

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

(1株当たり情報)

前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
1株当たり純資産額 1,756円36銭 1株当たり中間純利益 金額 91円75銭 なお、潜在株式調整後1株当たり 中間純利益金額については、潜在株 式が存在しないため記載しておりま せん。	1株当たり純資産額 1,761円96銭 1株当たり中間純利益 金額 83円19銭 なお、潜在株式調整後1株当たり 中間純利益金額については、潜在株 式が存在しないため記載しておりま せん。	1株当たり純資産額 1,740円26銭 1株当たり当期純利益 金額 107円75銭 なお、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額については、潜在株 式が存在しないため記載しておりま せん。

(注) 1株当たり中間(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前連結会計年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)
1株当たり中間(当期)純利益金額			
中間(当期)純利益(百万円)	66,886	60,243	78,549
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	—	—	—
(うち利益処分による役員賞与金) (百万円)	—	—	—
普通株式に係る中間(当期)純利 益(百万円)	66,886	60,243	78,549
普通株式の期中平均株式数(千株)	729,042	724,154	729,029
潜在株式調整後1株当たり中間(当 期)純利益金額			
中間(当期)純利益調整額 (百万円)	—	—	—
普通株式増加数(千株)	—	—	—
(うち新株予約権(千株))	—	—	—
希薄化効果を有しないため、潜在 株式調整後1株当たり中間(当 期)純利益金額の算定に含めなか った潜在株式の概要	—	—	—

リース取引、有価証券、デリバティブ取引、ストック・オプション等に関する注記事項については、中間決算短信における開示の必要性が大きくないと考えられるため開示を省略しております。



## 5. 中間個別財務諸表

## (1) 中間貸借対照表

区分	注記 番号	前中間会計期間末 (2006年9月30日)		当中間会計期間末 (2007年9月30日)		前事業年度の要約貸借対照表 (2007年3月31日)	
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
(資産の部)							
I 流動資産							
1 現金及び預金		27,860		18,538		5,320	
2 受取手形		—		487		—	
3 売掛金		—		142,531		—	
4 有価証券		—		417,884		—	
5 たな卸資産		—		32,125		—	
6 その他		179		65,084		1,212	
貸倒引当金		—		△539		—	
流動資産合計		28,039	2.3	676,111	51.8	6,532	0.5
II 固定資産							
1 有形固定資産							
(1) 建物		23		74,505		18	
(2) その他		9		47,812		8	
計		32		122,318		27	
2 無形固定資産		288		6,264		278	
3 投資その他の資産							
(1) 投資有価証券		—		228,520		—	
(2) 関係会社株式		1,186,407		—		1,183,019	
(3) 関係会社株式及び出資金		—		287,055		—	
(4) その他		99		31,073		111	
貸倒引当金		—		△1,690		—	
投資損失引当金		—		△43,190		—	
計		1,186,506		501,767		1,183,131	
固定資産合計		1,186,827	97.7	630,350	48.2	1,183,436	99.5
資産合計		1,214,867	100.0	1,306,461	100.0	1,189,969	100.0

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

区分	注記 番号	前中間会計期間末 (2006年9月30日)		当中間会計期間末 (2007年9月30日)		前事業年度の要約貸借対照表 (2007年3月31日)		
		金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)	
(負債の部)								
I 流動負債								
1 買掛金		—		24,846		—		
2 短期借入金		25,000		—		25,000		
3 未払金		1,041		24,285		1,387		
4 未払法人税等		72		13,834		290		
5 返品調整引当金		—		122		—		
6 売上割戻引当金		—		2,723		—		
7 偶発損失引当金		—		2,232		—		
8 その他		332		52,018		422		
流動負債合計		26,446	2.2	120,063	9.2	27,100	2.3	
II 固定負債								
1 退職給付引当金		—		159		—		
2 土地浄化対策引当金		—		2,545		—		
3 その他		—		29,543		—		
固定負債合計		—	—	32,248	2.5	—	—	
負債合計		26,446	2.2	152,311	11.7	27,100	2.3	
(純資産の部)								
I 株主資本								
1 資本金		50,000	4.1	50,000	3.8	50,000	4.2	
2 資本剰余金								
(1) 資本準備金		179,858		179,858		179,858		
(2) その他資本剰余金		903,493		842,571		903,494		
資本剰余金合計		1,083,351	89.2	1,022,429	78.3	1,083,352	91.0	
3 利益剰余金								
(1) その他利益剰余金								
繰越利益剰余金		55,231		62,846		29,766		
利益剰余金合計		55,231	4.5	62,846	4.8	29,766	2.5	
4 自己株式		△162	△0.0	△43,354	△3.3	△249	△0.0	
株主資本合計		1,188,421	97.8	1,091,921	83.6	1,162,869	97.7	
II 評価・換算差額等								
1 その他有価証券評価差額金		—	—	62,228	4.7	—	—	
評価・換算差額等合計		—	—	62,228	4.7	—	—	
純資産合計		1,188,421	97.8	1,154,149	88.3	1,162,869	97.7	
負債純資産合計		1,214,867	100.0	1,306,461	100.0	1,189,969	100.0	

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

(2) 中間損益計算書

区分	注記 番号	前中間会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)		当中間会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)		対前中間 期比	前事業年度の要約損益計算書 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)				
		金額 (百万円)	百分比 (%)	金額 (百万円)	百分比 (%)		増減 (百万円)	金額 (百万円)	百分比 (%)		
I 売上高			2,757	100.0		287,690	100.0	284,932		6,141	100.0
II 売上原価			—	—		70,134	24.4	70,134		—	—
売上総利益			2,757	100.0		217,556	75.6	214,798		6,141	100.0
III 販売費及び一般管理費			2,630	95.4		146,052	50.7	143,422		5,780	94.1
営業利益			127	4.6		71,503	24.9	71,376		361	5.9
IV 営業外収益			57	2.1		21,877	7.5	21,820		77	1.3
V 営業外費用			59	2.2		1,529	0.5	1,469		168	2.8
経常利益			124	4.5		91,851	31.9	91,727		269	4.4
VI 特別利益			—	—		2,046	0.7	2,046		—	—
VII 特別損失			—	—		11,673	4.0	11,673		3,488	56.8
税引前中間(当期)純利益又は中間(当期)純損失			124	4.5		82,224	28.6	82,100		△3,218	△52.4
法人税、住民税及び事業税		29				16,880			311		
法人税等調整額		33	63	2.3	10,395	27,275	9.5	27,212	△173	137	2.2
中間(当期)純利益又は中間(当期)純損失			60	2.2		54,949	19.1	54,888		△3,355	△54.6

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

(3) 中間株主資本等変動計算書

前中間会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)

	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計	
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計			
2006年3月31日 残高 (百万円)	50,000	1,083,349	0	1,083,350	73,545	73,545	△84	1,206,810	1,206,810
中間会計期間中の変動額									
剰余金の配当 (注)					△18,374	△18,374		△18,374	△18,374
中間純利益					60	60		60	60
資本準備金の取崩し		△903,491	903,491	—				—	—
自己株式の取得							△81	△81	△81
自己株式の処分			1	1			4	5	5
中間会計期間中の変動額合計 (百万円)	—	△903,491	903,492	1	△18,313	△18,313	△77	△18,389	△18,389
2006年9月30日 残高 (百万円)	50,000	179,858	903,493	1,083,351	55,231	55,231	△162	1,188,421	1,188,421

(注) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

当中間会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)

	株主資本							
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
2007年3月31日 残高 (百万円)	50,000	179,858	903,494	1,083,352	29,766	29,766	△249	1,162,869
中間会計期間中の変動額								
会社分割による減少			△60,924	△60,924				△60,924
剰余金の配当					△21,870	△21,870		△21,870
中間純利益					54,949	54,949		54,949
吸収合併による自己株式の増加							△9,747	△9,747
自己株式の取得							△33,362	△33,362
自己株式の処分			1	1			4	6
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額 (純額)								
中間会計期間中の変動額合計 (百万円)	—	—	△60,922	△60,922	33,079	33,079	△43,104	△70,947
2007年9月30日 残高 (百万円)	50,000	179,858	842,571	1,022,429	62,846	62,846	△43,354	1,091,921

第一三共株式会社(4568) 2008年3月期中間決算短信

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	評価・換算差額 等合計	
2007年3月31日 残高 (百万円)	-	-	1,162,869
中間会計期間中の変動額			
会社分割による減少			△60,924
剰余金の配当			△21,870
中間純利益			54,949
吸収合併による自己株式の 増加			△9,747
自己株式の取得			△33,362
自己株式の処分			6
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額 (純額)	62,228	62,228	62,228
中間会計期間中の変動額合計 (百万円)	62,228	62,228	△8,719
2007年9月30日 残高 (百万円)	62,228	62,228	1,154,149

前事業年度の株主資本等変動計算書 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)

	株主資本								純資産合計
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		自己株式	株主資本 合計	
		資本準備金	その他資本 剰余金	資本剰余金 合計	その他利益 剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計			
2006年3月31日 残高 (百万円)	50,000	1,083,349	0	1,083,350	73,545	73,545	△84	1,206,810	1,206,810
事業年度中の変動額									
資本準備金の取崩し		△903,491	930,491	-				-	-
剰余金の配当 (注)					△18,374	△18,374		△18,374	△18,374
剰余金の配当					△22,048	△22,048		△22,048	△22,048
当期純損失					△3,355	△3,355		△3,355	△3,355
自己株式の取得							△172	△172	△172
自己株式の処分			2	2			7	10	10
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)									-
事業年度中の変動額合計 (百万円)	-	△903,491	903,493	2	△43,778	△43,778	△164	△43,941	△43,941
2007年3月31日 残高 (百万円)	50,000	179,858	903,494	1,083,352	29,766	29,766	△249	1,162,869	1,162,869

(注) 2006年6月の定時株主総会における利益処分項目であります。

(企業結合等関係)

前中間会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前事業年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)										
	<p>(当社による三共(株)及び第一製薬(株)の吸収合併)</p> <p>当社と当社の完全子会社である三共(株)及び第一製薬(株)は、2006年11月30日に締結した合併契約書に基づき、2007年4月1日付で合併しております。</p> <p>(1) 結合当事企業の名称、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要</p> <p>イ. 結合当事企業の名称</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結合企業</li> </ul> <table border="1" data-bbox="603 696 999 808"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一三共(株) (当社)</td> <td>子会社の経営管理</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被結合企業</li> </ul> <table border="1" data-bbox="603 846 999 1032"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>三共(株)</td> <td>医薬品等の製造及び販売並びに輸出輸入</td> </tr> <tr> <td>第一製薬(株)</td> <td>医薬品等の製造及び販売並びに輸出輸入</td> </tr> </tbody> </table> <p>ロ. 企業結合の法的形式及び結合後企業の名称</p> <p>当社を存続会社、三共(株)及び第一製薬(株)を消滅会社とする共通支配下における吸収合併であり、結合後企業の名称は第一三共(株)であります。</p> <p>ハ. 取引の目的を含む取引の概要</p> <p>三共(株)と第一製薬(株)の経営統合の当初よりのスケジュールに従って、両社を持株会社である当社が吸収合併し、日本発のグローバル創薬型企業としての基盤を整えることを目的としております。なお、合併による新株の発行及び資本金の増加はありません。</p> <p>(2) 実施した会計処理の概要</p> <p>上記取引は、「企業結合に係る会計基準」に定める共通支配下の取引等に該当いたします。当社が吸収合併消滅会社から受け入れた資産と負債の差額のうち株主資本の額と、当社が合併直前に保有していた吸収合併消滅会社株式の帳簿価額との差額である「抱合せ株式消滅差損」3,488百万円は、前事業年度において特別損失に計上しており、当中間会計期間における損益への影響はありません。</p>	名称	事業の内容	第一三共(株) (当社)	子会社の経営管理	名称	事業の内容	三共(株)	医薬品等の製造及び販売並びに輸出輸入	第一製薬(株)	医薬品等の製造及び販売並びに輸出輸入	
名称	事業の内容											
第一三共(株) (当社)	子会社の経営管理											
名称	事業の内容											
三共(株)	医薬品等の製造及び販売並びに輸出輸入											
第一製薬(株)	医薬品等の製造及び販売並びに輸出輸入											

前中間会計期間 (自 2006年4月1日 至 2006年9月30日)	当中間会計期間 (自 2007年4月1日 至 2007年9月30日)	前事業年度 (自 2006年4月1日 至 2007年3月31日)								
	<p>(第一三共プロファーマ(株)への旧三共(株)医薬品等製造事業の吸収分割)</p> <p>当社の完全子会社である第一三共プロファーマ(株)と三共(株)が2006年11月30日に締結した分割契約書に基づき、当社は三共(株)の医薬品等の製造に係る事業を2007年4月1日付で分割し、これを第一三共プロファーマ(株)が承継しております。なお、第一三共プロファーマ(株)は同じく2007年4月1日付で、第一製薬(株)の生産子会社でありました第一ファルマテック(株)を吸収合併しております。</p> <p>(1) 結合当事企業の名称、企業結合の法的形式、結合後企業の名称並びに取引の目的を含む取引の概要</p> <p>イ. 結合当事企業の名称</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結合企業</li> </ul> <table border="1" data-bbox="603 913 999 1059"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一三共プロファーマ(株)</td> <td>医薬品等の製造、製造受託、売買及び輸出入</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 被結合企業</li> </ul> <table border="1" data-bbox="603 1099 999 1211"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>事業の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一三共(株) (当社)</td> <td>(旧三共(株)の) 医薬品等の製造</td> </tr> </tbody> </table> <p>ロ. 企業結合の法的形式及び結合後企業の名称</p> <p>第一三共プロファーマ(株)を承継会社、当社を分割会社とする共通支配下における吸収分割であり、結合後企業の名称は第一三共プロファーマ(株)であります。</p> <p>ハ. 取引の目的を含む取引の概要</p> <p>医薬品等の製造機能を一体化し、製品の安定供給、高品質、低コストを効率的に実現することを目的としております。なお、合併による新株の発行及び資本金の増加はありません。</p> <p>(2) 実施した会計処理の概要</p> <p>上記取引は、「企業結合に係る会計基準」に定める共通支配下の取引等に該当いたします。当社から子会社への移転事業に係る株主資本相当額から移転事業に係る繰延税金資産及び繰延税金負債を控除した金額60,924百万円を、2007年4月1日に当社の株主資本(その他資本剰余金)から控除しております。</p>	名称	事業の内容	第一三共プロファーマ(株)	医薬品等の製造、製造受託、売買及び輸出入	名称	事業の内容	第一三共(株) (当社)	(旧三共(株)の) 医薬品等の製造	
名称	事業の内容									
第一三共プロファーマ(株)	医薬品等の製造、製造受託、売買及び輸出入									
名称	事業の内容									
第一三共(株) (当社)	(旧三共(株)の) 医薬品等の製造									



# 補足資料

P46～63

2007.11.6



第一三共株式会社  
コーポレートコミュニケーション部





2007年度中間期  
決算短信および補足資料  
目 次

1.	決算短信	P1 ~45
2.	補足資料	
	[1]損益計算書推移	P46
	[2]為替レート	P46
	[3]グローバル製品売上高	P47
	[4]海外売上高	P47
	[5]セグメント別情報(事業別)	P48
	[6]セグメント別情報(所在地別)	P48
	[7]主要経営指標	P49
	[8]設備投資および減価償却費	P49
	[9]単元株式の所有者別状況	P49
	[10]国内の状況(主要製品売上高)	P50,51
	[11]海外の状況(主要製品売上高)	P52,53
	[12]連結財務諸表の解説	P54~57
	[13]開発パイプラインの状況	P58~63

2007.11.6



第一三共株式会社

コーポレートコミュニケーション部

# 1.損益計算書推移

(単位：億円)

	2006年度実績						2007年度									
	上半期		下半期		年度実績		上半期実績			下半期予想		年度予想				
		医薬品* 事業合計 (除) 決算期 変更の影響		医薬品* 事業合計 (除) 決算期 変更の影響		医薬品* 事業合計 (除) 決算期 変更の影響	対7月公表	医薬品* 事業合計	(除) 欧州決 算期変更の 影響	対7月公表		対7月公表	医薬品* 事業合計	(除) 欧州決 算期変更の 影響		
前同比	<7.5>		<6.4>		<0.4>	<4.8>	<-8.7>		<4.4>	<-2.6>		<-5.8>		<4.2>	<6.5>	
売上高	4,858	3,958	4,437	3,979	9,295	7,937	4,437	277	4,273	4,132	4,323	113	8,760	390	8,596	8,455
売上原価	1,380	964	1,272	939	2,652	1,902	1,132	132	989	950	1,078	73	2,210	205	2,064	2,028
売上原価率	28.4%	24.3%	28.7%	23.6%	28.5%	24.0%	25.5%		23.1%	23.0%	24.9%		25.2%		24.0%	24.0%
販管費	2,695	2,345	2,585	2,489	5,280	4,834	2,366	-44	2,341	2,255	2,584	199	4,950	155	4,925	4,839
販管費率	55.5%	59.2%	58.3%	62.6%	56.8%	60.9%	53.3%		54.8%	54.6%	59.8%		56.5%		57.3%	57.2%
再掲) 研究開発費	849	799	857	834	1,707	1,633	783	-37	778	775	932	137	1,715	100	1,710	1,707
研究開発費率	17.5%	20.2%	19.3%	21.0%	18.4%	20.6%	17.6%		18.2%	18.7%	21.6%		19.6%		19.9%	20.2%
前同比	<-2.5>		<-22.1>		<-11.9>	<-14.9>	<-19.9>		<27.8>	<42.7>	<14.0>		<17.4>		<24.5>	<32.3>
営業利益	784	650	580	551	1,363	1,201	939	189	946	927	661	-159	1,600	30	1,607	1,588
営業利益率	16.1%	16.4%	13.1%	13.8%	14.7%	15.1%	21.2%		22.1%	22.4%	15.3%		18.3%		18.7%	18.8%
前同比	<6.7>		<-17.1>		<-4.8>	<-8.0>	<14.2>		<20.9>	<35.4>	<10.1>		<12.4>		<18.4>	<26.1>
経常利益	882	733	639	612	1,521	1,345	1,007	207	1,014	992	703	-147	1,710	60	1,717	1,695
経常利益率	18.2%	18.5%	14.4%	15.4%	16.4%	16.9%	22.7%		23.7%	24.0%	16.3%		19.5%		20.0%	20.1%
前同比	<35.3>		<-69.5>		<-10.4>	<-53.8>	<-9.9>		<14.9>	<25.2>	<240.9>		<27.3>		<140.8>	<174.8>
当期純利益	669	458	117	-105	785	353	602	162	593	573	398	-82	1,000	80	991	970
当期利益率	13.8%	11.6%	2.6%	-2.6%	8.5%	4.4%	13.6%		13.9%	13.9%	9.2%		11.4%		11.5%	11.5%

\*医薬品事業合計については、2007年度との比較を容易にするために、継続対象としている事業について記載しております。従って、決算上の医薬品事業とは異なります。

## 【特記事項】

### 2007年度上半期実績（前期との比較）

#### 【プラス要因】

2007年度は、欧州子会社の第一三共ヨーロッパGmbH（DSE）について決算期の変更（12月期→3月期決算）を行っており、上半期は2007年1月-2007年9月の9ヶ月を計上しております。  
その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円、経常利益21億円、純利益20億円であります。

#### 【マイナス要因】

2006年度は、米国子会社2社について決算期の変更（12月期→3月期決算）を行っており、上半期は2006年1月-2006年9月の9ヶ月を計上しております。  
その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円、営業利益90億円、経常利益105億円、純利益58億円であります。

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。2006年度上半期には、連結子会社のうち、和光堂（株）、富士製粉（株）等、2006年度下半期には第一化学薬品（株）、（株）第一ラジオアイソトープ研究所、三共アグロ（株）、目黒化工（株）、三共エール薬品（株）、第一メディカル（株）等が連結除外となりました。  
2007年度上半期には第一ファインケミカル（株）、埼玉第一製薬（株）等が連結除外となっております。

#### 2007年度業績予想

上半期実績には、当初業績予想には含まれていない非医薬品事業各社の実績が計上されておりますが、引き続きグループ外への自立化に取り組んでおりますので、下半期業績予想に反映していません。

## 2.為替レート

	2006年度実績		2007年度		
	上半期	年度	上半期実績	下半期予想	
					7月 公表
円/USD（期中平均）	115.9	117.0	119.3	115	115
円/EUR（期中平均）	142.2	146.1	160.4	155	140

### 【為替の影響】

#### 上半期実績

予算レートに対し、1ドル約5円、1ユーロ約20円の円安となったため、**売上高114億円、営業利益12億円**の増収増益要因となりました。

#### 年度業績予想

1円の為替変動によるUSドルベースの売上高への影響は約18億円、営業利益への影響は約3億円と見ております。  
同様に、ユーロベースの売上高への影響は約5億円、営業利益に対しては軽微な影響と見ております。

### 3. グローバル製品売上高

(単位：億円)

	2006年度実績				2007年度										
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績				下半期予想			年度予想			
					対7月公表	前同比	決算期 変更除 前同比	対7月公表	前同比	対7月公表	前同比	決算期 変更除 前同比			
オルメサルタン 【高血圧症治療剤】	840	763	1,603	73.5%	966	11	15.1%	32.1%	1,054	59	38.0%	2,020	70	26.0%	35.2%
日本：オルメテック	194	228	422	64.9%	264	-21	36.0%	-	346	1	51.7%	610	-20	44.5%	-
米国： ベニカー/ ベニカーHCT* エイゾール	533	395	928	84.4%	445	5	-16.5%	18.1%	443	13	12.3%	888	18	-4.3%	15.1%
欧州：オルメテック/ オルメテックプラス**	101	124	225	53.2%	-	-	-	-	32	5	-	32	5	-	-
その他	12	16	28	56.2%	223	18	121.6%	58.0%	197	32	58.1%	420	50	86.4%	58.1%
レボフロキサシン 【合成抗菌剤】	488	553	1,041	2.6%	34	9	189.6%	-	36	8	118.3%	70	17	148.9%	-
日本：クラビット	210	257	467	-6.9%	529	19	8.4%	-	571	1	3.2%	1,100	20	5.6%	-
輸出等	193	191	384	10.6%	221	-9	5.1%	-	289	-1	12.4%	510	-10	9.1%	-
特許料	85	104	190	14.4%	216	21	11.9%	-	179	-1	-6.3%	395	20	2.8%	-
プラバスタチン 【高脂血症治療剤】	520	415	935	-34.7%	92	7	8.6%	-	103	3	-2.0%	195	10	2.8%	-
日本：メバロチン	348	330	678	-9.9%	403	-2	-22.4%	-25.5%	387	12	-6.9%	790	10	-15.5%	-17.3%
欧州**	33	27	60	9.1%	317	-13	-9.0%	-	323	3	-2.0%	640	-10	-5.6%	-
輸出等	139	59	198	-68.4%	41	4	26.4%	-22.7%	21	-2	-24.2%	62	2	3.4%	-23.4%
					45	7	-67.7%	-	43	11	-26.8%	88	18	-55.5%	-

\*米国オルメサルタン（製品名：ベニカー）の2006年度実績は、決算期の変更により、2006年1月-2007年3月の15ヶ月分を計上しております。

2006年度上半期は、2006年1月-9月の9ヶ月分を計上しており、1月-3月の実績は、156億円（\$135mil）であります。

\*\*欧州オルメサルタン（製品名：オルメテック）、プラバスタチンの2007年度は、決算期の変更により、2007年1月-2008年3月の15ヶ月分を計上します。

2007年度上半期は、2007年1月-9月の9ヶ月分を計上しており、1月-3月の実績は、オルメサルタン64億円（€40mil）、プラバスタチン16億円（€10mil）であります。

### 4. 海外売上高

(単位：億円)

	2006年度実績				2007年度									
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績				下半期予想			年度予想		
					対7月公表	前同比	対7月公表	前同比	対7月公表	前同比				
北米*	1,350	1,069	2,419	32.4%	1,112	122	-17.6%	1,088	38	1.8%	2,200	160	-9.0%	
欧州**	446	397	843	-14.3%	567	37	27.3%	413	43	3.8%	980	80	16.2%	
その他	151	154	305	16.5%	206	76	36.1%	134	4	-12.8%	340	80	11.4%	
海外売上高	1,946	1,621	3,567	16.1%	1,885	235	-3.2%	1,635	85	0.9%	3,520	320	-1.3%	
対売上高比率	40.1%	36.5%	38.4%		42.5%			37.8%			40.2%			

その他：中国、韓国、タイ、台湾、ブラジル、ベネズエラ等

\*2006年度は、第一三共INC. (DSI) とルイトポルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社について決算期の変更（12月期→3月期決算）により、15ヶ月決算となっております。2006年度上半期は、2006年1月-2006年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円であります。

\*\*2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の決算期を変更（12月期→3月期決算）したため、15ヶ月決算となっております。2007年度上半期は、2007年1月-2007年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円であります。

## 5.セグメント別情報（事業別）

(単位：億円)

		2006年度実績			2007年度実績	
		上半期	下半期	年度	上半期	前同比
	国内医療用医薬品	2,152	2,182	4,334	2,145	-0.3%
	海外医療用医薬品*	1,852	1,529	3,381	1,847	-0.3%
	ヘルスケア	246	233	479	244	-0.6%
	医薬品事業	4,414	3,957	8,371	4,240	-3.9%
	その他事業	444	479	924	197	-55.7%
	連結売上高	4,858	4,437	9,295	4,437	-8.7%
	医薬品事業	759	555	1,314	942	24.1%
	その他事業	23	21	44	-4	-
	連結営業利益	784	580	1,363	938	20.0%

\*2006年度は、第一三共INC. (DSI) とルイトボルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社について決算期の変更（12月期→3月期決算）により、15ヶ月決算となっております。2006年度上半期は、2006年1月～2006年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円、営業利益90億円であります。

\*2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の決算期を変更（12月期→3月期決算）したため、15ヶ月決算となっております。2007年度上半期は、2007年1月～2007年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円であります。

## 6.セグメント別情報（所在地別）

(単位：億円)

		2006年度実績						2007年度実績		
		上半期		下半期		年度		上半期		前同比
			構成比		構成比		構成比	構成比		
	日本	3,420	70.4%	3,259	73.5%	6,678	71.9%	2,954	66.6%	-13.6%
	北米*	1,085	22.3%	829	18.7%	1,915	20.6%	897	20.2%	-17.4%
	欧州**	273	5.6%	261	5.9%	534	5.7%	453	10.2%	66.0%
	その他	80	1.6%	88	2.0%	168	1.8%	133	3.0%	66.5%
	連結売上高	4,858	100.0%	4,437	100.0%	9,295	100.0%	4,437	100.0%	-8.7%
	日本	716		411		1,127		694		
	北米	339		34		373		225		
	欧州	54		14		68		34		
	その他	3		5		8		13		
	連結営業利益	784		580		1,363		966		

\*2006年度は、第一三共INC. (DSI) とルイトボルドファーマシューティカルズInc. (LPI) の2社について決算期の変更（12月期→3月期決算）により、15ヶ月決算となっております。2006年度上半期は、2006年1月～2006年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2006年1月-3月）は、売上高315億円、営業利益90億円であります。

\*\*2007年度は、第一三共ヨーロッパGmbH (DSE) の決算期を変更（12月期→3月期決算）したため、15ヶ月決算となっております。2007年度上半期は、2007年1月～2007年9月の9ヶ月決算となっております。その影響額（2007年1月-3月）は、売上高141億円、営業利益18億円であります。

## 7.主要経営指標

	2006年度実績		2007年度	
	上半期	年度(末)	上半期実績	年度予想
配当性向(連結)	32.7 %	55.7 %	42.1 %	50.5 %
1株当たり利益(EPS)	91.7 円	107.7 円	83.1 円	139.1 円
1株当たり配当金	30.0 円	60.0 円	35.0 円	70.0 円
純資産配当率(DOE)	1.7 %	3.5 %	4.0 %	
自己資本当期純利益率(ROE)	5.3 %	6.3 %	4.8 %	
1株当たり純資産(BPS)	1,756.3 円	1,740.2 円	1,761.9 円	
自己資本比率	78.3 %	77.5 %	83.6 %	
期末発行済株式総数	729,027 千株	729,002 千株	718,983 千株	
期末株価(終値)	3,350 円	3,610 円	3,450 円	
連結子会社数	54 社	54 社	46 社	
連結要員数	18,604 名	15,358 名	15,655 名	
(再掲) 国内要員数	13,678 名	10,379 名	9,635 名	
海外要員数	4,926 名	4,979 名	6,020 名	

## 8.設備投資および減価償却費

	2006年度実績		2007年度	
	上半期	年度	上半期実績	年度予想
減価償却費	190 億円	399 億円	188 億円	380 億円
設備投資(工事ベース)	135 億円	315 億円	130 億円	

## 9.単元株式の所有者別状況

	2006年9月末			2007年3月末			2007年9月末		
	株主数		構成比	株主数		構成比	株主数		構成比
	(名)	(百万株)		(名)	(百万株)		(名)	(百万株)	
政府及び地方公共団体	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	0	0.0%
金融機関	178	341	46.5%	186	347	47.4%	192	343	46.7%
証券会社	40	10	1.4%	58	12	1.8%	65	17	2.4%
その他の法人	593	48	6.6%	647	49	6.7%	653	44	6.0%
外国法人等	600	241	33.0%	638	234	31.9%	614	221	30.2%
個人・その他	49,077	91	12.5%	52,290	89	12.2%	58,079	91	12.5%
自己株式	1	0	0.0%	1	0	0.0%	1	16	2.2%
合計	50,490	733	100.0%	53,821	733	100.0%	59,605	733	100.0%

## 10.国内の状況

### 主要医療用医薬品売上高（建値売上高）

（単位：億円）

	2006年度実績				2007年度							
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績		下半期予想		年度予想			
					対7月公表	前同比	対7月公表	対7月公表	前同比			
国内医療用医薬品売上高（純売上高）	2,061	2,143	4,204	1.8%	2,110	-70	2.4%	2,320	-20	4,430	-90	5.4%
循環器関連疾患領域												
オルメテック【高血圧症治療剤】	194	228	422	65.4%	264	-21	36.0%	346	1	610	-20	44.5%
カルブロック【高血圧症治療剤】	41	47	88	38.0%	48	-12	17.2%	67	-8	115	-20	31.0%
アーチスト【高血圧症治療剤】	96	97	193	5.9%	106	-9	10.2%	114	-1	220	-10	14.0%
メパロチン【高脂血症治療剤】	348	330	678	-9.9%	317	-13	-9.0%	323	3	640	-10	-5.6%
クレメジン【慢性腎不全用剤】	61	61	122	-6.4%	62	-3	1.6%	68	3	130	0	6.7%
ハンブ【急性心不全剤】	42	50	92	5.8%	45	-1	7.8%	55	1	100	0	8.9%
リパロ【高脂血症治療剤】	25	26	51	23.9%	26	-7	6.7%	34	-3	60	-10	16.9%
サンリズム【不整脈治療剤】	59	58	117	-1.3%	62	2	4.5%	58	-2	120	0	2.3%
ベプリコール【不整脈・狭心症治療剤】	11	12	23	25.8%	13	1	18.8%	14	0	27	1	17.3%
ファスティック【血糖降下剤】	27	27	54	0.6%	26	-1	-3.0%	24	-4	50	-5	-7.3%
感染症/骨・関節/免疫・アレルギー/泌尿器												
クラビット【合成抗菌剤】	210	257	467	-6.9%	221	-9	5.1%	289	-1	510	-10	9.1%
ロキソニン【消炎鎮痛解熱剤】	149	160	309	8.0%	164	-6	9.7%	186	6	350	0	13.2%
モービック【消炎鎮痛剤】	54	53	107	0.7%	54	-11	-0.5%	61	1	115	-10	7.8%
ユリーフ【排尿障害改善剤】	11	12	23	-	23	-6	120.9%	52	1	75	-5	231.4%
ジルテック【抗アレルギー剤】	51	69	120	-4.8%	45	0	-11.0%	55	5	100	5	-16.4%
造影剤/癌/消化器												
オムニバーク【造影剤】	164	151	315	-9.1%	159	-21	-2.7%	161	1	320	-20	1.5%
オムニスキャン【MRI用造影剤】	27	25	52	-2.6%	25	-2	-8.5%	23	-5	48	-7	-8.5%
トボテシ注【抗悪性腫瘍剤】	26	28	54	12.1%	31	2	17.8%	29	-2	60	0	10.5%
クレスチン【抗悪性腫瘍剤】	20	18	38	-18.2%	16	-3	-16.9%	16	-2	32	-5	-15.8%
フエロン【天然型インターフェロンβ製剤】	19	21	40	9.6%	19	-5	-1.2%	28	-3	47	-8	17.3%

### 主要ヘルスケア製品売上高

（単位：億円）

	2006年度実績				2007年度							
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績		下半期予想		年度予想			
					対7月公表	前同比	対7月公表	対7月公表	前同比			
ヘルスケア売上高（純売上高）	246	233	479	-	244	-16	-0.6%	276	16	520	0	8.4%
ルル類	53	47	100	7.7%	48	-7	-9.5%	59	4	107	-3	6.7%
ガスター10	17	19	36	-	17	0	0.2%	20	-2	37	-2	3.1%
新三共胃腸薬類	14	16	30	2.2%	13	-1	-7.6%	20	0	33	-1	11.7%
バテックス類	11	8	19	-3.5%	18	0	61.4%	14	2	32	2	66.7%
トランシーノ	-	-	-	-	14	-	-	20	-	34	-	-

(単位：億円)

	2006年度		2007年度		備考(06→07増減)
	上半期 実績	上半期 実績	上半期		
			実績	対前同	
医療用医薬品売上高(純売上高)	2,061	2,110	49		
循環器関連疾患領域					
オルメテック【高血圧症治療剤】	194	264	70		薬物受容体との強固な結合により得られる強力な降圧効果、心血管系疾患をテーマとした血管保護作用が医療現場に浸透しつつあり、市場の成長を大きく上回る拡大。
カルブロック【高血圧症治療剤】	41	48	7		持続的降圧効果、心・腎保護作用における優位性の訴求が奏効し堅調に推移。
アーチスト【高血圧症治療剤】	96	106	10		慢性心不全に唯一効能のあるβ遮断剤として心疾患領域での処方堅調に推移していることに加え、オルメテックおよびカルブロックを併せた情報提供によって高血圧症の処方も順調に拡大。
メバロチン【高脂血症治療剤】	348	317	-31		日本人対象の大規模臨床試験MEGA Studyによるエビデンスや、改訂ガイドラインに基づき適正使用を継続推進。スタンダードスタチン好適患者への処方が拡大するも、後発品や競合品の攻勢により減少。
クレメジン【慢性腎不全用剤】	61	62	1		尿毒症症状改善効果、透析導入遅延効果などを訴求する中で、CKD(慢性腎臓病)診療ガイドにおいて重度の患者に対する経口吸着薬(クレメジン等)の処方が推奨されたことも追い風となり新規処方拡大。
ハンパ【急性心不全剤】	42	45	3		急性心不全治療における第一選択薬としての高い有用性が浸透。新規処方拡大。
リバロ【高脂血症治療剤】	25	26	1		スタチンのバイオオナーメーカーとしてメバロチンとともに脂質異常症に対する適切な薬物治療提案により処方拡大。
サンリズム【不整脈治療剤】	59	62	3		エビデンスやガイドラインに基づき、心房細動のリズムコントロールに対する第一選択薬として継続的に伸長。
ベプリコール【不整脈・狭心症治療剤】	11	13	2		他剤無効例や難治例に対する治療ニーズは高い。一方で、安全性を担保するための情報および適正使用情報の提供を推進。
ファスティック【血糖降下剤】	27	26	-1		グリニド製剤2製品4ブランドで構成されるグリニド製剤市場において、前同を僅かながら下回るもトップシェアを維持。
感染症/骨・関節/免疫・アレルギー/泌尿器					
クラビット【合成抗菌剤】	210	221	11		標的市場は前同を下回ったものの、高い安全性と強い抗菌力、幅広い適応菌種を兼ね備えたキノロン製剤としてクラビットは継続拡大。
ロキソニン【消炎鎮痛解熱剤】	149	164	15		強さ・速さ・安全性のバランスの取れた製品特性と高いブランド力が奏効し、発売20年以上経過した今も処方が拡大。ロキソニンパップも投与制限解除を経て順調に処方を拡大。
モービック【消炎鎮痛剤】	54	54	0		競合品となるCOX-2阻害剤が発売されたが、ロキソニンとの製品間シナジーによって前同を維持。
ユリーフ【排尿障害改善剤】	11	23	12		優れた自・他覚症状改善効果を市場に訴求し、投与制限解除以降も順調に売上を拡大。
ジルテック【抗アレルギー剤】	51	45	-6		アレルギー性鼻炎や蕁麻疹領域などで処方を確保したものの、多くの後発品が上市され減収。
造影剤/癌/消化器					
オムニパーク【造影剤】	164	159	-5		包括医療による後発品処方の拡大などにより減収。
オムニスキャン【MRI用造影剤】	27	25	-2		ガドリニウム系MRI用造影剤に関する安全性強化の観点から添付文書の改訂を行い適正使用情報の提供活動を徹底。
トボテシン注【抗悪性腫瘍剤】	26	31	5		エビデンスに基づく有用性訴求が奏効し、多様な薬物療法メニューへの組み入れが伸長。
クレスチン【抗悪性腫瘍剤】	20	16	-4		後発品を含む免疫療法の縮小により減収。
フェロン【天然型インターフェロンβ製剤】	19	19	0		低下しているインターフェロン製剤市場の中で、唯一C型代償性肝硬変に対する適応がある製剤として処方を維持。9月にC型慢性肝炎に関する抗ウイルス薬リパビリンとの併用療法について承認申請。

(単位：億円)

	2006年度		2007年度		備考(06→07増減)
	上半期 実績	上半期 実績	上半期		
			実績	対前同	
ヘルスケア売上高(純売上高)	246	244	-2		
ルル類	53	48	-5		店頭消化は順調に推移したものの、総合感冒薬市場が低迷していることに加え、昨年8月に『ルルアタックIB』を新発売した反動もあり減収。
ガスター10	17	17	0		口中溶解タイプの『ガスター10S錠』の定着などにより前年同期並みの売上を維持。
新三共胃腸薬類	14	13	-1		店頭消化は順調に推移したものの、胃腸薬市場が低迷する中で売上は微減。
パテックス類	11	18	7		近年伸張が著しいフェルピナク市場に『パテックスフェルピナク』シリーズ3品(5・35・シップ)を新発売し、大幅増収に貢献。
トランシーノ	-	14	14		大型化が期待される新効能医薬品として9月に発売後、肝斑(かんぱん)の啓発活動などにより店頭での新市場を創造。

主要輸出製品売上高（建値売上高）

（単位：億円）

	2006年度実績				2007年度							
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績		下半期予想		年度予想			
					対7月公表	前同比	対7月公表	対7月公表	前同比			
レボフロキサシン【合成抗菌剤】	163	161	324	9.6%	171	16	5.0%	149	-6	320	10	-1.1%
プラバスタチン【高脂血症治療剤】	148	68	216	-66.6%	33	2	-77.7%	27	10	60	12	-72.2%

11. 海外の状況

米子会社 - 主要製品売上高（純売上高）

（単位：億円）

	2006年度実績				2007年度						決算期変更除			
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績		下半期予想		年度予想		前同比			
					対7月公表	前同比	対7月公表	対7月公表	前同比	上半期	年度			
第一三共INC. (DSI)	736	568	1,304	70.3%	651	31	-11.6%	659	19	1,310	50	0.4%	20.4%	18.1%
ベニカー/ベニカーHCT 【高血圧症治療剤】 (mil USD)	533 (460)	395 (333)	928 (793)	84.4% 73.9%	445 (373)	5 (-8)	-16.5% -18.9%	443 (383)	13 (5)	888 (756)	18 (-3)	-4.3% -4.6%	18.1% 14.8%	15.1% 15.0%
エイゾール 【高血圧症治療剤】 (mil USD)	-	-	-	-	-	-	-	32 (28)	5 (5)	32 (28)	5 (5)	-	-	-
ウェルコール 【高脂血症治療剤】 (mil USD)	131 (113)	101 (85)	232 (198)	56.8% 48.1%	114 (96)	14 (7)	-13.1% -15.6%	126 (109)	1 (2)	240 (205)	15 (9)	3.4% 3.5%	23.8% 20.3%	24.3% 24.8%
フロキシソティック 【耳科用抗菌剤】 (mil USD)	45 (39)	37 (32)	82 (71)	33.8% 29.7%	54 (45)	-1 (-3)	21.2% 17.7%	11 (9)	-24 (-21)	65 (54)	-25 (-24)	-21.2% -24.1%	-	-
エボザック 【口腔乾燥症状改善剤】 (mil USD)	13 (11)	16 (14)	29 (25)	22.5% 18.7%	21 (18)	6 (5)	60.8% 56.2%	17 (14)	0 (-1)	38 (32)	6 (4)	29.1% 28.6%	-	-
ルイトネ® ルド® ファーマシューティカス Inc. (LPI)	350	260	610	54.5%	246	46	-29.6%	224	24	470	70	-23.0%	7.1%	-4.2%
ヴェノファア 【貧血治療剤】 (mil USD)	206 (178)	171 (144)	377 (322)	66.7% 57.1%	148 (124)	48 (35)	-28.4% -30.4%	137 (121)	27 (26)	285 (245)	75 (61)	-24.4% -23.9%	7.6% 4.6%	-7.5% -6.7%

ベニカー/ベニカーHCT、ウェルコール、ヴェノファアの2006年度実績は、2006年1月-2007年3月の15ヶ月の実績となっております。

（2006年1-3月実績）：ベニカー/ベニカーHCT 156億円（\$135mil）、ウェルコール 39億円（\$33mil）、ヴェノファア 68億円（\$59mil）

欧州子会社 - 主要製品売上高（純売上高）

（単位：億円）

	2006年度実績				2007年度						決算期変更除			
	上半期	下半期	年度	前同比	上半期実績		下半期予想		年度予想		前同比			
					対7月公表	前同比	対7月公表	対7月公表	前同比	上半期	年度			
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)	267	249	516	17.8%	453	53	71.1%	317	27	770	80	49.1%	17.7%	21.7%
オルメテック/オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】 (mil EURO)	101 (71)	124 (83)	225 (154)	53.2% 44.1%	223 (139)	18 (-8)	121.6% 96.5%	197 (127)	32 (9)	420 (266)	50 (1)	86.5% 72.7%	58.0% 39.9%	58.1% 46.7%
メバロチン 【高脂血症治療剤】 (mil EURO)	33 (23)	27 (18)	60 (41)	9.1% 2.6%	41 (26)	4 (-1)	26.4% 12.1%	21 (13)	-2 (-2)	62 (39)	2 (-3)	3.4% -4.5%	-22.7% -31.6%	-23.4% -29.0%

オルメテック/オルメテックプラス、メバロチンの2007年度上半期実績は、2007年1月-2007年9月の9ヶ月の実績となっております。

（2007年1-3月実績）：オルメテック/オルメテックプラス 64億円（€40mil）、メバロチン 16億円（€10mil）



(単位：億円)

	2006年度	2007年度		備考(06→07増減)
	上半期	上半期		
	実績	実績	対前同	
レボフロキサシン【合成抗菌剤】	163	171	8	欧・米ともに現地消化は引き続き堅調に推移。
プラバスタチン【高脂血症治療剤】	148	33	-115	欧米主要国における特許満了により減少。

(単位：億円)

	2006年度	2007年度		備考(06→07増減)
	上半期	上半期		
	実績	実績	対前同	
第一三共INC. (DSI)	736	651	-85	
ベニカー/ベニカーHCT 【高血圧症治療剤】 (mil USD)	533 (460)	445 (373)	-88 (-87)	米国子会社決算期変更の影響を除外した実質比較では+69億円(+48mil USD) 市場の拡大に加え、プロモーションの積極展開、製品特性の浸透等により成長持続。
エイゾール 【高血圧症治療剤】 (mil USD)	- -	- -	- -	強化された営業体制によって10月より販促を開始。 (フォレスト・ラボラトリーズ社と共同販促)
ウェルコール 【高脂血症治療剤】 (mil USD)	131 (113)	114 (96)	-17 (-17)	米国子会社決算期変更の影響を除外した実質比較では+22億円(+16mil USD) プロモーション数増加により増収基調を堅持。
フロキシシオティック 【耳科用抗菌剤】 (mil USD)	45 (39)	54 (45)	9 (6)	10月にジェネリックが発売されたことから今後の販売動向を注視。
エボザック 【口腔乾燥症状改善剤】 (mil USD)	13 (11)	21 (18)	8 (7)	シェーグレン症候群の認知度も向上し一般開業医での処方も拡大。
ライト・ルト <sup>®</sup> ファーマシューティカルズ Inc. (LPI)	350	246	-104	
ヴェノファア 【貧血治療剤】	206 (178)	148 (124)	-58 (-54)	米国子会社決算期変更の影響を除外した実質比較では+10億円(+5mil USD) 後発品が上市されなかったこともあり、前年同期並の売上を維持。

ベニカー/ベニカーHCT、ウェルコール、ヴェノファアの2006年度実績は、2006年1月-2007年3月の15ヶ月の実績となっております。

(2006年1-3月実績)：ベニカー/ベニカーHCT 156億円 (\$135mil)、ウェルコール 39億円 (\$33mil)、ヴェノファア 68億円 (\$59mil)

(単位：億円)

	2006年度	2007年度		備考(06→07増減)
	上半期	上半期		
	実績	実績	対前同	
第一三共ヨーロッパGmbH (DSE)	267	453	186	
オルメテック/オルメテックプラス 【高血圧症治療剤】 (mil EURO)	101 (71)	223 (139)	122 (68)	欧州子会社決算期変更の影響を除外した実質比較では+58億円(+28mil EURO) 単剤が堅調に推移していることに加え、配合剤が主要国に出揃ったこともあり伸長持続。
メバロチン 【高脂血症治療剤】 (mil EURO)	33 (23)	41 (26)	8 (3)	欧州子会社決算期変更の影響を除外した実質比較では-7億円(-7mil EURO) 自社販売、ジェネリックメーカーへの販売とも減少。

オルメテック/オルメテックプラス、メバロチンの2007年度上半期実績は、2007年1月-2007年9月の9ヶ月の実績となっております。

(2007年1-3月実績)：オルメテック/オルメテックプラス 64億円 (€40mil)、メバロチン 16億円 (€10mil)

## 12.連結財務諸表

### 連結貸借対照表<資産の部>

(単位：億円)

	2007.3.31		2007.9.30		増減	増減内容
		構成比 (%)		構成比 (%)		
流動資産	10,158	62.1	9,449	62.3	-709	
現金及び預金	1,726		639		-1,087	----- 手元流動性 (現預金+有価証券+投資有価証券他)
受取手形及び売掛金	1,972		1,908		-64	合計 6,526億円 (対07年末 -551億円)
有価証券	4,489		4,905		416	【内容】当期利益+602億円、配当金支払-219億円
たな卸資産	1,078		1,051		-27	自己株式取得-332億円、未払金等支払-670億円等
繰延税金資産	634		600		-34	
その他	268		355		87	
貸倒引当金	-7		-8		-1	
固定資産	6,210	37.9	5,710	37.7	-500	
有形固定資産	2,489	15.2	2,404	15.9	-85	
建物及び構築物	1,425		1,408		-17	
機械装置及び運搬具	400		358		-42	----- 子会社の連結除外*による減少
土地	380		366		-14	
建設仮勘定	120		112		-8	
その他	163		160		-3	
無形固定資産	602	3.7	538	3.5	-64	
のれん	186		168		-18	
その他	416		370		-46	
投資その他の資産	3,120	19.0	2,767	18.3	-353	
投資有価証券	2,622		2,459		-163	----- 時価評価差益の減少
長期貸付金	16		15		-1	
前払年金費用	180		37		-143	----- 退職給付制度の変更に伴う減少 (退職給付引当金との相殺)
繰延税金資産	89		60		-29	
その他	216		201		-15	
貸倒引当金	-4		-3		1	
資産合計	16,368	100.0	15,158	100.0	-1,210	

\*子会社の連結除外

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。  
 2006年度においては、連結子会社のうち、上半期に和光堂(株)、富士製粉(株)、下半期に第一化学薬品(株)、(株)第一ラジオアイソトープ研究所、三共アグロ(株)、目黒化工(株)、三共エール薬品(株)、第一メディカル(株)等が連結除外となりました。  
 2007年度においては、第一ファインケミカル(株)、埼玉第一製薬(株)等が連結除外となりました。



連結損益計算書

(単位:億円)

	2006年度		2007年度		増減	増減内容
	中間期	構成比 (%)	中間期	構成比 (%)		
売上高	4,858	100.0	4,437	100.0	-421	----- 欧米 (06年度:米、07年度:欧) 決算期変更に伴う影響額 <u>-174億円</u> グループ外自立化対象としている事業の縮小 <u>-421億円</u> オルメサルタン等主力製品を中心に売上が拡大 <u>+174億円</u>
売上原価	1,380	28.4	1,132	25.5	-248	----- 原価率 <u>-2.9P</u> 高原価率である非医薬事業子会社を連結除外した一方、オルメサルタン等の低原価製品比率が向上
売上総利益	3,478	71.6	3,305	74.5	-173	
販売費及び一般管理費	2,695	55.5	2,366	53.3	-329	----- 非医薬事業のグループ外自立化に伴う減少 <u>-151億円</u>
広告宣伝費及び販売促進費	518		506		-12	----- 欧米決算期変更に伴う影響額 <u>-88億円</u>
給料・賞与及び手当	542		468		-74	----- 国内要員適正化に伴う減少等
退職給付費用	37		-		-37	
研究開発費	849		783		-66	----- 国内要員適正化に伴う減少等
その他	747		609		-138	----- 減価償却費、賃借料等の減少
営業利益	784	16.1	939	21.2	155	
営業外収益	115	2.4	87	1.9	-28	
受取利息	40		44		4	
受取配当金	26		20		-6	
金融派生商品収益	23		0		-23	
営業外費用	17	0.3	19	0.4	2	
経常利益	882	18.2	1,007	22.7	125	
特別利益	245	5.0	40	0.9	-205	
固定資産売却益	16		13		-3	
関係会社株式処分益	206		23		-183	----- 非医薬品事業のグループ外化に伴う子会社売却益の減少 (2007年度 第一ファインケミカル、埼玉第一製薬等)
投資有価証券売却益	7		3		-4	
過年度研究開発費精算益	16		-		-16	
特別損失	143	3.0	67	1.5	-76	
固定資産処分損	16		8		-8	
事業統合関連損失	78		40		-38	----- 海外事業統合関連費用等の統合関連費用の減少 (2007年度 システム開発費用 <u>18億円</u> 、 拠点統廃合関連 <u>7億円</u> )
事業再編関連損失	19		6		-13	
偶発損失引当金繰入額	0		8		8	
税金等調整前当期純利益	984	20.2	980	22.1	-4	
法人税、住民税及び事業税等	314	6.4	377	8.5	63	----- 法人税率 31.9%→38.5%
少数株主利益	1	0.0	0	0.0	-1	(2006年度 米国子会社において、安定的な収益見通しに伴い 税効果を認識)
当期純利益	669	13.8	602	13.6	-67	

\* 子会社の連結除外

当社は医薬品事業への集中を図るため、非医薬品事業のグループ外自立化を進めてきました。  
2006年度においては、連結子会社のうち、上半期に和光堂(株)、富士製粉(株)、下半期に第一化学薬品(株)、(株)第一ラジオアイソトープ研究所、三共アグロ(株)、目黒化工(株)、三共エール薬品(株)、第一メディカル(株)等が連結除外となりました。  
2007年度においては、第一ファインケミカル(株)、埼玉第一製薬(株)等が連結除外となりました。

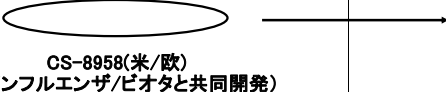

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	2006年度 中間期	2007年度 中間期	増減	増減内容
税金等調整前中間(当期)純利益	984	980	-4	
減価償却費	197	188	-9	
退職給付引当金の増減額	-5	-246	-241	} 制度変更に伴う前払年金との相殺および 確定拠出年金制度への移管に伴う未払振替等
前払年金費用の増減額	4	143	139	
売上債権の増減額	55	46	-9	
たな卸資産の増減額	46	-7	-53	
仕入債務の増減額	-52	-81	-29	
未払金及び未払費用の増減額	8	-650	-658	} 要員適正化や機能子会社への転籍に伴う 退職金未払等の支払い
その他	-89	-73	16	
法人税等の支払額	-451	-368	83	
<b>I 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>697</b>	<b>-68</b>	<b>-765</b>	
短期運用資産の増減額	-61	89	150	
固定資産の取得・売却等	-106	-127	-21	
投資有価証券の増減額	-148	-30	118	
貸付金の増減額	3	7	4	
新規連結子会社の株式取得	-272	-	272	---- 06年度:ゼファーマ株式取得
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	249	88	-161	} 06年度:和光堂等 07年度:第一ファインケミカル、埼玉第一製薬等
その他	9	29	20	
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>-327</b>	<b>56</b>	<b>383</b>	
借入金の増減額	-42	-42	0	
自己株式の取得による支出	-1	-334	-333	---- 07年度:10百万株取得(332億円)
配当金の支払額	-182	-219	-37	---- 1株当たり5円増配
その他	-7	-1	6	
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>-232</b>	<b>-595</b>	<b>-363</b>	
<b>IV 現金及び現金同等物に係る換算差額</b>	<b>2</b>	<b>-1</b>	<b>-3</b>	
<b>V 現金及び現金同等物の増減額</b>	<b>140</b>	<b>-608</b>	<b>-748</b>	
<b>VI 現金及び現金同等物の期首残高</b>	<b>4,010</b>	<b>5,132</b>	<b>1,122</b>	
<b>VII 連結範囲の変更による増減額</b>	<b>9</b>	<b>5</b>	<b>-4</b>	
<b>VIII 非連結子会社との合併に伴う増加額</b>	<b>-</b>	<b>10</b>	<b>10</b>	
<b>IX 現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>4,158</b>	<b>4,539</b>	<b>381</b>	

### 13.開発パイプラインの状況

#### 第一三共グループ開発パイプライン (ステージ別)

領域	主な既存品	Phase1	Phase2
循環器	Mevalotin Benicar/Olmetec Azor WeiChol オルメテック カルプロック アーチスト メパロチン クレメジン ハンブ リパロ サンリスム ヘブニコール	DZ-697b(米/欧/日) (抗血小板剤) HGF遺伝子プラスミド(米/欧) (虚血性心疾患) DB-772d(米/欧) (経口抗Xa剤)	DU-176b(米/欧/日) (経口抗Xa剤) HGF遺伝子プラスミド(米/欧) (末梢性血管疾患) SUN 4936h(米/欧) (急性心不全治療剤/導出先探索中) <del>★CS-866RN(日)</del> <del>(慢性糸球体腎炎)</del> ★CS-866CMB(日) (オルメサルタンとビロクロロチアジドの配合剤) CS-747(日) (抗血小板剤)
糖代謝	ファステック	SUN E7001(日) (II型糖尿病/導出先探索中) AJD101(米/欧) (インスリンシグナル経路活性化)	<del>CS-917(米/欧)</del> <del>(糖新生阻害)</del> CS-011(日) (グリタゾン系) AJD101(日) (インスリンシグナル経路活性化)
感染症	Levaquin/Tavanic Banan クレビット	DC-159a(米/欧) (ニューキノロン剤) DX-619(米/欧/日) (ニューキノロン剤) CS-758(米/欧) (抗真菌)  CS-8958(米/欧) (抗インフルエンザ/ピオタと共同開発)	DU-6859a inj(米) (ニューキノロン剤/注射) CS-023(米/欧/日) (カルバペネム系抗生物質) レボフロキサシン注(日) (ニューキノロン剤) CS-8958(日) (抗インフルエンザ)
癌	Camptosar トホテン クレステン	CS-7017(米/欧) (PPARγ作動薬)  DE-766(日) (ニモズマブ/抗EGFR抗体)	CS-1008(米/欧) (抗DR5抗体)
免疫・アレルギー	ジルテック	CS-0777(米/欧) (免疫抑制剤)	<del>CS-712(日)</del> <del>(スギ花粉症)</del>
骨・関節	ロキソニン モービック		<del>CS-706(米/欧)</del> <del>(COX-2阻害剤)</del> SUN E3001(日) (骨粗鬆症治療剤/導出先探索中)
その他	Venofer Evoxac オムニパーク オムニスキャン フェロン ユリーフ	SUN N8075(米/欧) (脳神経保護剤/セクワが開発)	SUN N4057(米/欧) (脳梗塞急性期治療剤) CS-088(米/欧/日) (緑内障/参天と共同開発) SUN11031(日) (神経性食欲不振症) SUN11031(米/欧) (カヘキシア)

★効能追加、剤形追加等

2007年7月の第1四半期決算発表以降の主な変更

- 新規追加(アンダーライン) : DB-772d(米/欧)、AJD101(日)、SUN 0588r(日)
- ステージの変更など : CS-8663(米)、CS-8663(欧)、CS-8958(日)、CS-1008(米/欧)、CS-1401E(日)、SUN 0588r(米)、
- 開発中止など : CS-866RN(日) [Phase2試験において、有効性・安全性は確認できたが、研究開発ポートフォリオのCS-917(米/欧) [研究開発ポートフォリオの観点から開発中止]  
CS-712(日) [研究開発ポートフォリオの観点から開発中止]  
CS-706(米/欧) [導出済]

Phase3	申請/承認
<p>GS-747(米/欧) (抗血小板剤)</p> <p>HGF遺伝子プラスミド(日) (末梢性血管疾患)</p>  <p>☆CS-866DM(日) (糖尿病性腎症)</p> <p>☆CS-866AZ(日) (オルメサルタンとアゼルニジピン の配合剤)</p>	<p>☆CS-8663(米) (オルメサルタンとアムロジピンの 配合剤/承認・上市)</p> <p>☆CS-8663(欧) (オルメサルタンとアムロジピンの 配合剤/申請中)</p>
<p>CS-011(米/欧) (グリタゾン系)</p>	<p>☆WeiChol DM(米) (糖尿病/申請中)</p>
<p>SUN A0026(北米) (ペネム系抗生物質/レプリダインに 導出)</p> <p>☆レボフロキサシン高用量(日) (ニューキノロン剤)</p>	<p>DF-098(日) (Hibワクチン/承認)</p> <p>DU-6859a oral(日) (ニューキノロン剤/経口/申請中)</p>
<p>AMG162(日) (デノスマブ / 抗RANKL抗体/ P3:癌骨転移、P2:骨粗鬆症)</p> <p>☆CS-600G(日) (ロキソプロフェンゲル製剤)</p>	<p>☆LX-P(日) (ロキソプロフェンテープ製剤/申請中/ リードケミカルと共同開発)</p>
<p>SUN Y7017(日) (軽度・中等度および高度アルツハイマー 型認知症)</p>   <p>KMD-3213(中国) (排尿障害治療剤)</p>	<p>☆CS-1401E(日) (麻酔用鎮痛剤/承認・上市)</p> <p>SUN 0588r(米/日) (米:高フェニルアラニン血症/ バイオマリンに導出/申請中 日:トトラヒドロヒオプテリン反応性 高フェニルアラニン血症/申請中)</p> <p>☆DL-8234(日) (フェエロン効増/C型慢性肝炎/ リバピリン併用療法/申請中)</p>

DL-8234(日)、SUN N8075(米/欧)  
観点から開発中止]

第一三共グループ 開発パイプライン (1)

領域	開発番号	一般名	剤形、経路	適応予定、剤名等	オリジン
循環器	CS-747	プラスグレル	経口剤	急性冠症候群 / 抗血小板剤	第一三共、 宇部興産
	—	HGF遺伝子プラスミド	注射剤	末梢性血管疾患、虚血性心疾患 / HGF遺伝子医薬品、血管新生療法	アンジェスMG (販売提携)
	DU-176b	—	経口剤	心房細動に伴う心原性脳梗塞の予 防、静脈血栓塞栓症の予防・治療 / 経口抗Xa剤	第一三共
	★CS-8663	オルメサルタン メドキシミル、 ベシル酸アムロジピン	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシン II 受容体拮抗剤、 カルシウム拮抗剤	第一三共
	★CS-866DM	オルメサルタン メドキシミル	経口剤	糖尿病性腎症 / アンジオテンシン II 受容体拮抗剤	第一三共
	★CS-866AZ	オルメサルタン メドキシミル、 アゼルニジピン	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシン II 受容体拮抗剤、 カルシウム拮抗剤	第一三共
	★CS-866CMB	オルメサルタン メドキシミル、 ヒドロクロロチアジド	経口剤	高血圧症 / アンジオテンシン II 受容体拮抗剤、 利尿剤	第一三共
	SUN 4936h	カルペリチド (遺伝子組換え)	注射剤	急性心不全 / $\alpha$ 型ヒト心房性ナトリウム 利尿ペプチド製剤	アスピオファーマ
糖代謝	CS-011	リボグリタゾン	経口剤	糖尿病 / インスリン抵抗性改善剤	第一三共
	AJD101	—	経口剤	糖尿病 / インスリンシグナル経路活性化剤	味の素
	★WelChol DM	塩酸コレセバラム	経口剤	糖尿病 / 胆汁酸吸着剤	ジェンザイム

★効能追加、剤形追加等



開発地域	開発会社 (自社グループ/ 共同開発)	ステージ (申請年月)	備 考
米欧	共同開発 (イーライリリー)	P3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非臨床試験において、他剤より血小板凝集抑制作用が強く、また作用発現が早いことが認められている血小板凝集阻害薬である。</li> <li>・臨床試験において、血小板凝集抑制作用に個人差が少ないことが認められている。</li> <li>・米欧はイーライリリーと共同開発。</li> </ul>
日	自社	P2	
米欧	アンジェスMG	P2 (末梢)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肝細胞増殖因子(HGF:Hepatocyte Growth Factor)の遺伝子を筋肉内投与することにより、病巣局所でHGFを産生させ、血管新生を促進する再生医療法である。治療が困難な「末梢性血管疾患(閉塞性動脈硬化症、バージャー病)」および「虚血性心疾患(心筋梗塞、狭心症)」などの新規治療法として期待される。</li> <li>・アンジェスMG社と提携し、日・米・欧における独占的販売権を取得、アンジェスMG社による本剤の開発を支援し、再生医療への国際的貢献を図る。</li> </ul>
		P1 (心臓)	
日	P3 (末梢)		
米欧	自社	P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗Xa作用を有し、ヒトにおける高い経口吸収性が確認されている抗凝固剤である。</li> <li>・ヒト経口投与試験において、トロンビン生成が用量相関的に抑制されることが確認されている。</li> </ul>
日	自社	P2	
米	自社	承認 (07.09)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オルメサルタンとCa拮抗剤(アムロジピン)との配合剤</li> <li>・米国商品名:エイゾール(Azor)</li> </ul>
欧	自社	申請済 (07.09)	
日	自社	P3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ORIENT試験実施中</li> <li>・効能追加</li> </ul>
日	自社	P3	オルメサルタンとCa拮抗剤(アゼルニジピン)との配合剤
日	自社	P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発売: 米国2003年9月、欧州2005年6月</li> <li>・オルメサルタンと利尿剤(ヒドロクロロチアジド)との配合剤</li> </ul>
米欧	自社	P2 (導出先探索中)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>\alpha</math>型ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドで、血管拡張作用および利尿作用を併せ持ち、日本においては既に1995年に急性心不全の適応を取得、上市された。以来、着実に成長し、本領域の中心的薬剤となっている。</li> </ul>
米欧	自社	P3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規グリタゾン系の糖尿病治療薬であり、非臨床試験において他剤より強いPPAR<math>\gamma</math>活性化作用が認められている。</li> <li>・臨床試験において、他剤を上回る用量依存的な糖・脂質代謝改善が確認されている。</li> </ul>
日	自社	P2	
日	共同開発 (味の素)	P2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規メカニズムの糖尿病治療薬</li> <li>・経口投与でインスリンのシグナル経路を活性化することにより血糖降下作用を示す薬剤であり、種々の糖尿病モデルにおいて血糖降下作用が認められている。</li> </ul>
米欧	自社	P1	
米	自社	申請中 (06.12)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効能追加</li> <li>・通常治療で効果のない2型糖尿病患者に対し、食事療法、運動療法に付加的に用いられることが期待される。</li> <li>・臨床試験において、インスリン併用患者のHbA1cレベルの低下が確認されている。</li> </ul>

【原則P II以降の課題を掲載】

第一三共グループ 開発パイプライン (2)

領域	開発番号	一般名	剤形、経路	適応予定、剤名等	オリジン
感染症	DF-098	乾燥ヘモフィルスb型 結合体ワクチン	注射剤	インフルエンザ菌b型による 感染症の予防	サノバツール (合弁会社と販売提携)
	DU-6859a	シタフロキサシン水和物	注射剤 経口剤	細菌感染症 / ニューキノロン剤	第一三共
	GS-023	—	注射剤	細菌感染症 / カルバペネム系抗生物質	第一三共
	GS-8958	—	吸入剤	インフルエンザ	第一三共
	★レボフロキサシン高用量	レボフロキサシン	経口剤	細菌感染症/ニューキノロン剤	第一三共
	★レボフロキサシン注	レボフロキサシン	注射剤	細菌感染症/ニューキノロン剤	第一三共
	SUN A0026	ファロペネム メドキシミル	経口剤	細菌感染症/ペネム系抗生物質	アスピオファーマ
癌	GS-1008	—	注射剤	抗DR5抗体	第一三共
骨・関節	AMG162	デノスマブ	注射剤	骨粗鬆症/抗RANKL抗体 癌骨転移/抗RANKL抗体	アムジェン
	★LX-P	ロキソプロフェン ナトリウム	テープ製剤	消炎鎮痛剤	第一三共
	★CS-600G	ロキソプロフェン ナトリウム	ゲル製剤	消炎鎮痛剤	第一三共
	SUN E3001	(慣用名) ヒト副甲状腺ホルモン	経鼻剤	骨粗鬆症	アスピオファーマ
その他	SUN Y7017	メマンチン塩酸塩	経口剤	アルツハイマー型認知症/ NMDA受容体拮抗剤	メルツ
	SUN N4057	—	注射剤	脳梗塞急性期/ セロトニン1A受容体アゴニスト	アスピオファーマ
	KMD-3213	シロドシン	経口剤	前立腺肥大症に伴う排尿障害改善/ α1A受容体選択的拮抗剤	キッセイ薬品
	SUN11031	(慣用名) ヒトグレリン	注射剤	カヘキシア 神経性食欲不振症	アスピオファーマ
	CS-088	オルメサルタン	点眼剤	緑内障/アンジオテンシンII受容体拮抗剤	第一三共
	★DL-8234	インターフェロン-β	注射剤	C型慢性肝炎 (リバビリンとの併用療法)	東レ
	★CS-1401E	フェンタニルクエン酸塩	注射剤	麻酔用鎮痛剤	ヤンセン
	SUN 0588r	塩酸サプロプロテリン	経口剤	高フェニルアラニン血症 テトラヒドロプロピオテリン反応性高フェ ニルアラニン血症	アスピオファーマ

★効能追加、剤形追加等

開発地域	開発会社 (自社グループ/ 共同開発)	ステージ (申請年月)	備 考
日	サノフィパスツール 第一三共ワクチン	承認 (07.01)	・サノフィパスツール社により創製され、当社との合弁会社において開発、承認申請中の日本初の小児用インフルエンザ菌b型(Hib)ワクチンである。Hibが主たる起炎菌である小児細菌性髄膜炎の発生率低下への貢献が期待される。 ・2007年1月26日承認 ・現在、上市にむけた準備を進めており、2008年3月から4月の上市を予定。
米	自社	P2	・幅広い抗菌スペクトラムと強力な抗菌力を有し、一般感染症のみならず難治性感染症に対する効果が期待できる広範囲のニューキノロン剤である ・日本では、呼吸器感染症および尿路感染症を中心に経口剤で開発中。 ・米国では、重症および耐性菌感染症を対象に注射剤で開発中。
日	自社	申請済 (06.09)	
米欧日	自社	P2	・薬剤耐性菌を含む各種病原性細菌に対する幅広い抗菌スペクトラムと強力な活性を有するカルバペネム系の抗生物質である。 ・他のカルバペネムよりも長い血中半減期を有する。
日	自社	P2	・長時間作用型のノイラミニダーゼ阻害薬であり、1回の投与のみで治療効果および週1回の投与での予防効果が期待できる。
米欧	共同開発 (ビオタ)	P1	・インフルエンザウィルスの感染部位である肺、気管に直接作用する吸入剤として開発中。
日	自社	P3	レボフロキサシンの用法用量変更[1回100mg(重症な場合は200mg)、1日2~3回から、1回500mg、1日1回に]
日	自社	P2	・レボフロキサシンの注射剤 ・剤形追加
北米	レプリダイン	P3	・世界初のペネム系経口抗生物質として1997年に日本において発売された一般名「ファロペナムナトリウム」のプロドラッグである。経口投与後に消化管から良好に吸収され、生体内でファロペナムに変換されて各種細菌に対して抗菌作用を発揮する。その抗菌作用は強力かつ殺菌的である。 ・北米でレプリダインに導出し、2005年12月に米国FDAに4つの適応症について承認申請したが、2006年10月にFDAより非承認の通知。 ・2007年2月、販売先としていたフォレストは契約を解除。 ・現在、レプリダインは追加臨床試験の実施等についてFDAと協議中。
米欧	自社	P2	・細胞表面にDR5(Death Receptor 5)を発現した癌細胞に対してアポトーシスを誘導する。 ・DR5は、正常細胞ではほとんど発現しておらず、腫瘍細胞に選択的に作用することが期待される。
日	自社	P2	・RANKリガンド(破骨細胞の形成・活性化に必須のリガンド)をターゲットとする完全ヒト型モノクローナル抗体。
日	自社	P3	・骨粗鬆症や癌の骨転移を含む骨関連疾患の治療・予防薬として期待される。
日	共同開発 (リードケミカル)	申請済 (07.02)	・ロキソプロフェンナトリウム水和物含有経皮吸収型軟膏剤(テープ剤) ・リードケミカル社との共同開発
日	自社	P3	・ロキソプロフェンナトリウム水和物含有経皮吸収型軟膏剤(ゲル製剤) ・東興薬品工業へ製造委託
日	自社	P2 (導出先探索中)	・ヒト副甲状腺ホルモン[hPTH(1-34)]の経鼻投与製剤 ・PTHは、カルシウム代謝調節ホルモンの1つであり、既存の骨粗鬆症治療剤が骨吸収を抑制することで作用を発現するのに対し、骨形成を促進する作用を持つ新しいタイプの骨粗鬆症治療剤となることが期待される。他社自己注射剤が米国で承認済み。
日	自社	軽度・中等度 P3  高度 P3	・既存のアセチルコリンエステラーゼ阻害剤とは異なり、グルタミン酸受容体の1つであるNMDA受容体への拮抗作用を有するアルツハイマー型認知症治療剤である。 ・神経細胞保護作用による認知症症状の進行抑制が期待される。 ・日本において「高度アルツハイマー型認知症」と「軽度・中等度アルツハイマー型認知症」に対するPhase3を実施中。
米欧	自社	P2	神経細胞のセロトニン1A受容体を活性化することにより、脳虚血によって惹起されるグルタミン酸の過剰遊離と神経細胞の興奮(脱分極)を抑制し、虚血による神経細胞死を抑制する。
中国	自社	P3	・前立腺肥大症に伴う排尿障害改善剤 ・前立腺の $\alpha$ 1A受容体をブロックし尿道の緊張を弛緩させ、尿道抵抗を改善する。既存薬に比べ $\alpha$ 1A受容体に対する選択性が高いため、循環器系への副作用が少なく、また自覚症状の早期改善が期待される。
米欧	自社	P2	現在までに発見されている摂食行動に関与するホルモンの中で、グレリンは唯一の末梢性の内因性摂食亢進因子であり、あわせて強力な成長ホルモン分泌促進作用を有する。国内外で、食欲不振症、種々のかヘシアに対する治療薬として開発中。
日	自社	P2	
米欧	共同開発 (参天製薬)	P2	参天製薬と共同開発
日	共同開発 (東レ)	P2	
日	共同開発 (東レ)	申請済 (07.09)	$\alpha$ 型に比較して抑うつ等の中枢性副作用、脱毛の発現が少ない天然型のインターフェロン- $\beta$ 製剤。
日	-	承認 (07.08)	・医師主導型治験 ・オピオイド鎮痛薬フェンタニルエン酸塩の小児における用法用量追加
米欧	バイオマリン	申請済 (米:07.05)	・国内では、BH4欠乏型の異型高フェニアラニン血症の治療薬として上市されている。 ・最近の研究でフェニアラニン水酸化酵素変異型の中にBH4反応性の高フェニアラニン血症の存在が明らかになった。
日	自社	申請済 (07.03)	・米国:バイオマリンに導出、2007年5月に申請 ・欧州:バイオマリンからメルク・セローノにサブライセンス ・日本:効能追加申請、希少疾病用医薬品に指定



#### 将来の見通しに関して

当社では、東京証券取引所に提出する収益予想に加えて、投資家や証券アナリストの皆様が自ら当社の業績に関する予想を立てられるよう、見通しに関するガイダンスを提供する場合があります。また、ご挨拶、講演、質疑応答、当社の発行する書面、ホームページ記載内容等には現在の計画、見通し、戦略などが含まれる場合があります。

何れの場合におきましても、歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また現在入手可能な情報から得られた当社の判断にもとづいております。従いまして、当社の業績、企業価値等を検討されるに当たっては、これら見通しのみで全面的に依拠されることは控えて頂けるようお願い致します。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)急速な技術革新が進む創薬分野において、タイムリーに研究・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

つくっているのは、希望です。



Daiichi-Sankyo

**第一三共株式会社**